
News Release

第8回 新型コロナウイルス（新型肺炎/COVID-19）調査

レポート作成：2021/3
調査実施：2021/2



目次

	Page		Page
当資料の利用条件	3	院内感染対策について	32
調査概要	4	来院患者数の状況	33
当資料をご覧になる際の注意点や用語説明など	5	「診療・検査医療機関」としての申請状況	34
回答者属性	6-9	「診療・検査医療機関」としての継続予定	35
昨年同時期と比べた来院患者数の変化	10	新型コロナウイルス患者診察にともなう追加業務	36
新型コロナウイルスの相談や問い合わせの変化	11	患者を診る上で不足している情報	37
新型コロナウイルス感染症の疑い患者の診察	12	受診相談窓口は機能しているか	38
新型コロナウイルス感染症の疑い患者診察人数	13	新型コロナウイルスの収束時期予測	39
疑い患者の来院事前連絡有無	14	感染拡大以前の生活に戻るために必要なこと	40-41
疑い患者の診察を断った経験	15	自身の新型コロナウイルスワクチン接種意向	42
新型コロナウイルスの検査状況	16-17	患者への新型コロナウイルスワクチン接種推奨意向	43
PCR検査にかかる日数	18-19	来年度のスタッフの新規採用予定	44
実施可能な検査	20-21	東京オリンピックの開催について	45
医療機関で実際に検査や治療を行っているか	22	患者さんや家族からのねぎらいの言葉	46
先生自身が実際に診察・治療を行っているか	23		
増えつつある、症状が深刻化しつつある疾患	24-25		
医療現場で困っていること	26-29		
医療スタッフは足りているか	30		
医療スタッフの疲弊度	31		

株式会社eヘルスケアは、「人々が健康を維持・増進し、患者さんが安心してヘルスケアを受けられることを願い、幸せで豊かな人生を送れる社会づくりに貢献します。」のローガンに則り、当調査は社会貢献活動の一環として実施しております。

調査結果のご利用について

「新型コロナウイルス感染症についての緊急アンケート調査レポート」(以下、当調査レポート)は、教育研究上の目的を含め、公序良俗に反しない限り以下の条件において無料でご利用いただくことができます。

当調査レポートの著作権は、株式会社eヘルスケアに帰属します。

・ご利用には出典の記載が必要です。

例)「第8回 新型コロナウイルス感染症についての緊急アンケート調査レポート(2021'2)」株式会社eヘルスケア
WEB媒体で掲載される際は併せて弊社サイトへのリンクをお願いします。

(リンク先URL: <https://www.ehealthcare.jp/>)

- ・出版物やその他の印刷物などへのご利用の場合、発行の際に弊社宛に一部お送りください。
- ・当調査レポートは細心の注意を払って作成しておりますが、内容の正確性については一切保証いたしません。
- ・ご利用に関して生じたあらゆる損害等についても、理由の如何に関わらず、当社は一切責任を負いません。
- ・ご利用に関して利用者が当社に損害を与えた場合は、利用者は当社にその損害を賠償する責任を負います。
- ・当社はご利用開始後であっても利用者に対して提供を撤回することができます。

当調査レポートの追加データの提供や共同研究などのご依頼も受け付けております。

基本的に、費用等のご負担は必要ありませんので、お気軽にご意見、ご希望をお寄せください。

【お問い合わせ窓口】

株式会社eヘルスケア

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-8 第2紀尾井町ビル1F

Email: info@ehealthcare.co.jp

問い合わせ先: 「第8回 新型コロナウイルス(新型肺炎/COVID-19)調査」担当窓口 森田真一

目的

2020年3月以降、8回にわたって実施しているトラッキング調査の内、今回の2月調査を2020年6月、8月、10月、12月実施の調査結果と比較するかたちで、診療現場にいる医師の実感を掴み、医療機関の対応状況、医師の意識の変化を見る。

調査方法と対象者

インターネットアンケート 20年3月調査回答者 816件に発信

回答完了数

555回答（68.0% 対発信数）

調査期間

	調査名	調査期間
Wave 1	20年3月調査	2020年 3月17日(火) 10:00 ~ 3月23日(月) 12:00
Wave 2*	20年4月調査	2020年 4月16日(木) 10:00 ~ 4月21日(火) 9:00
Wave 3	20年5月調査	2020年 5月20日(水) 10:00 ~ 5月25日(月) 9:00
Wave 4	20年6月調査	2020年 6月23日(火) 10:00 ~ 6月29日(月) 9:00
Wave 5*	20年8月調査	2020年 8月25日(火) 10:00 ~ 8月31日(月) 9:00
Wave 6*	20年10月調査	2020年10月27日(火) 11:00 ~ 11月 2日(月) 9:00
Wave 7*	20年12月調査	2020年12月24日(火) 10:00 ~ 12月30日(水) 9:00
▶ Wave 8	21年2月調査	2021年 2月24日(水) 10:00 ~ 3月 2日(火) 9:00

*今調査の比較対象

当資料内で使用している用語や、閲覧する際に注意を要する点などについて説明します。

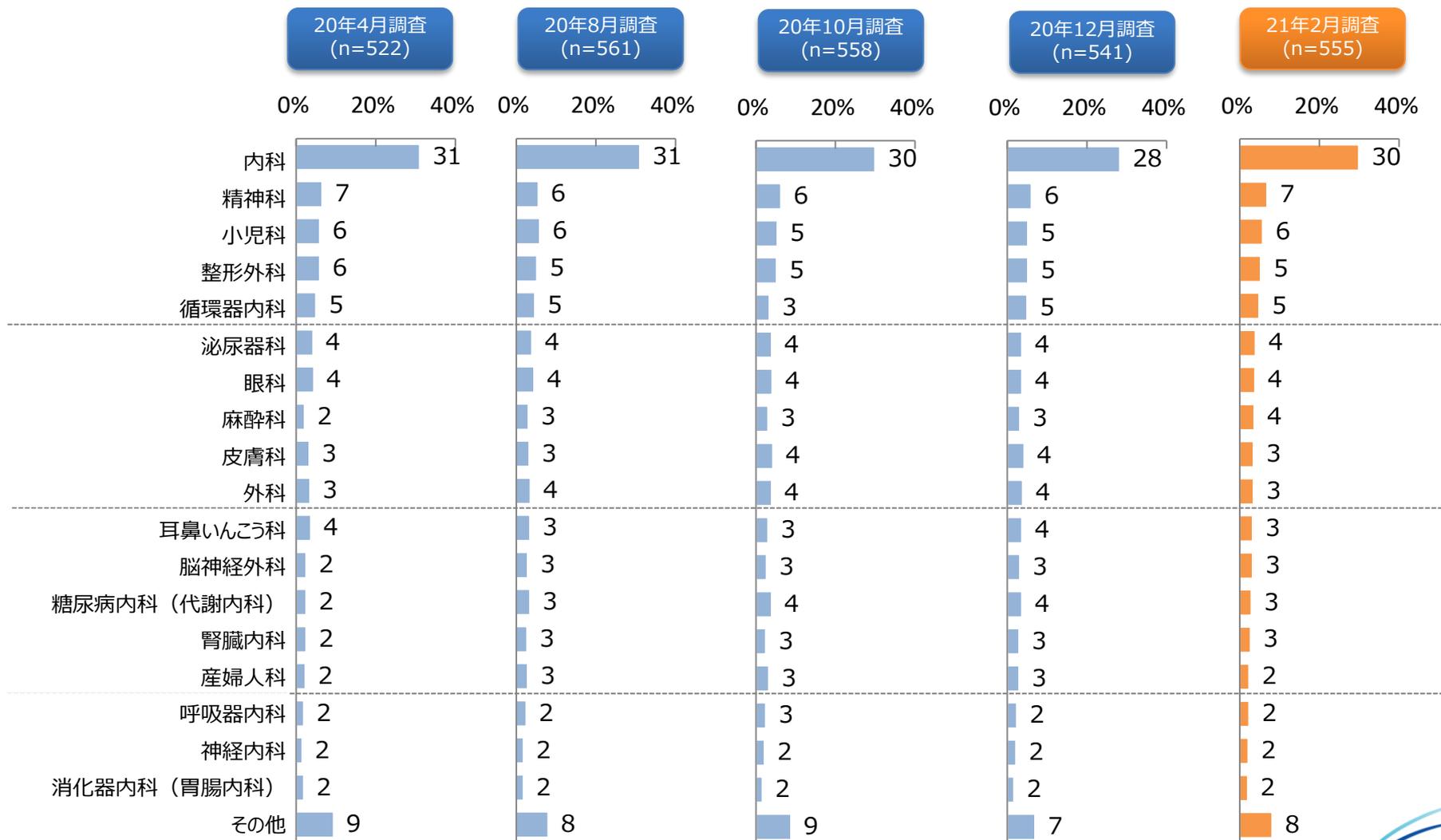
- %表示について
⇒グラフなどで利用されている%表示の数値は、小数点以下を四捨五入しており、合計で100%にならない場合があります。
- 医師の主診療科目や勤務医療機関の所在地域について
⇒2020年3月調査の分析では2018年の属性調査時の取得情報を使用しました。
2020年4月調査内で属性を再確認したことにより変更があった医師がいます。
- 比較のために記載する調査とその対象となる期間について
本調査レポートでは、今回の調査結果に加えて、弊社が過去に実施した新型コロナウイルスに関する調査のうち、20年4月(第2回)、20年8月(第5回)、20年10月(第6回)、20年12月(第7回)の調査結果を適宜記載します。
⇒質問ごとに、どの調査で設問がされたかを各頁下部に記載しています。

	回答期間	調査の対象となる期間	アンケート内での聞き方
20年4月調査	2020/4/17~21	3月調査実施時(3/17~23)~調査回答時点(4/17~21)	前回調査から現在まで約1か月
20年8月調査	2020/8/25~31	7月中旬~調査回答時点(8/25~31)までの約1か月	7月中旬から現在までの約1か月
20年10月調査	2020/10/27~11/2	9月下旬~調査回答時点(10/27~11/2)までの約1か月	9月下旬から現在までの約1か月
20年12月調査	2020/12/24~30	11月下旬~調査開始時点(12/24~30)までの約1か月	11月下旬から現在までの約1か月
21年2月調査	2021/2/24~3/2	1月下旬~調査開始時点(2/24~3/2)までの約1か月	1月下旬から現在までの約1か月

- SA、MA、OAとは？
SA: 単一選択回答(シングルアンサーの略)
MA: 複数選択回答(マルチアンサーの略)
OA: 選択肢を設けない自由回答(オープンアンサーの略)
- GP / HPとは？
GP: 診療所・小規模病院(100床未満)
HP: 中規模以上の病院(100床以上)
- n数(回答者数)が100に満たない調査結果は、参考値としてご覧ください。

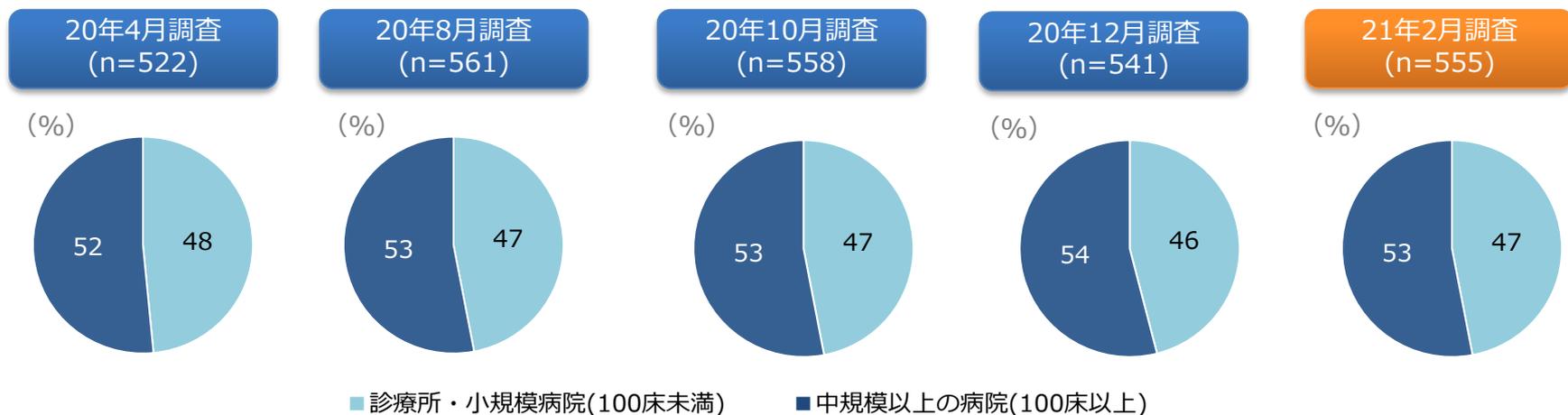
- 回答医師の主診療科目は内科が3割を占め、前回までと同様、最多。精神科、小児科、整形外科、循環器内科が5%以上で続いている。

主診療科目

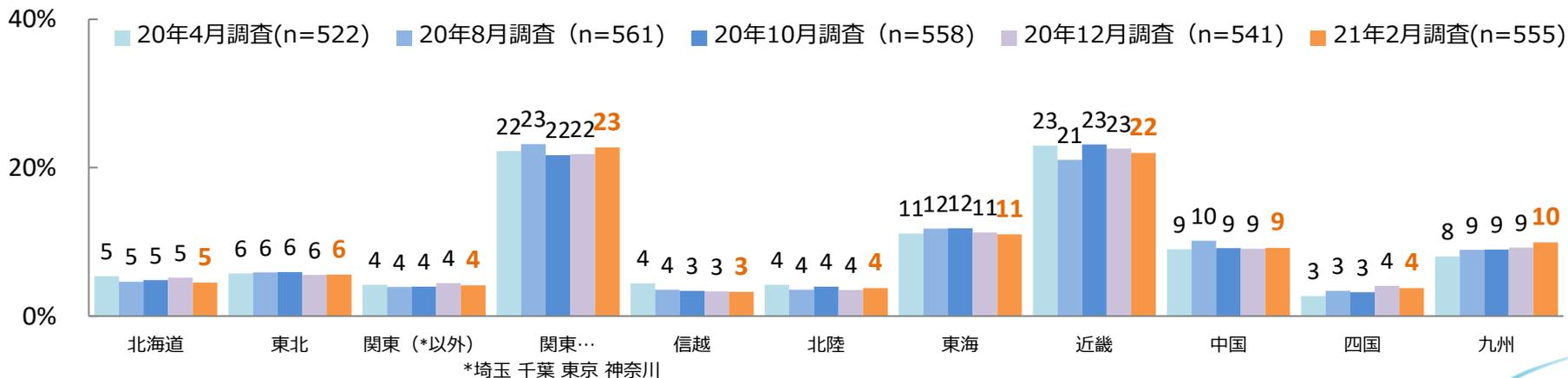


- 勤務先医療機関は、「診療所・小規模病院」と「中規模以上の病院」の割合も前回までと同様の傾向で、「中規模以上の病院」が若干多め。
- 回答医師の地域は、「関東(一都三県)」と「近畿」とがそれぞれ2割以上を占め、3番目に多い東海を合わせた3大都市圏で過半数となっている。

勤務先医療機関の規模

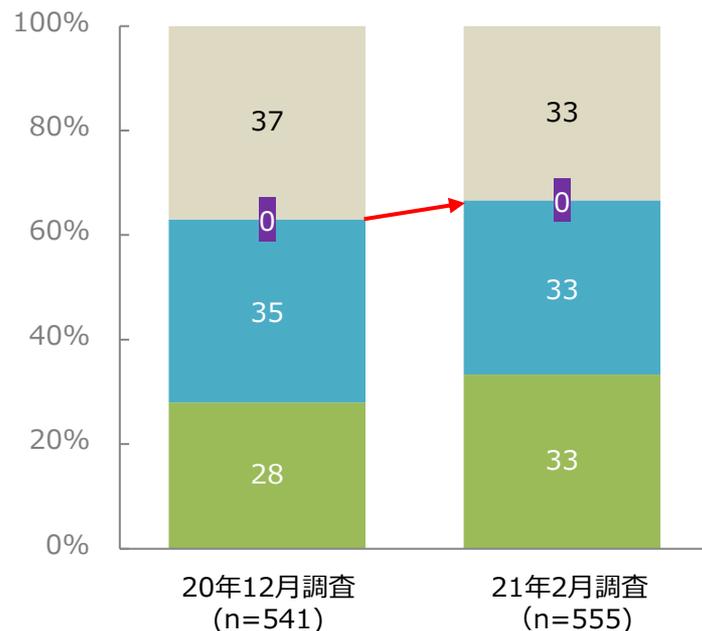


地域



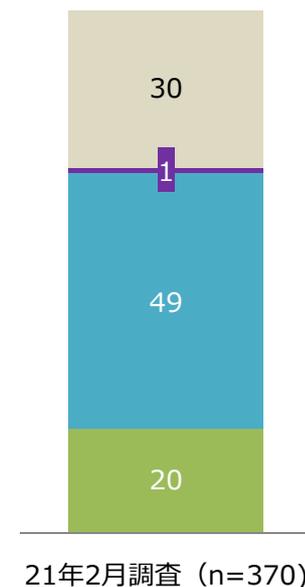
- 勤務先医療機関で新型コロナウイルス感染症の「検査、治療ともに行っている」は33%と、前回より5ポイント増加。「検査のみ」も33%。
- 2月調査で、医療機関で治療を行っているとした回答者に、回答医師自身が、新型コロナウイルス感染症の診察・治療を行っているかも尋ねたところ、2割が「検査、治療ともに」、半数近くが「検査のみ」を行っていた。

医療機関で実際に検査や治療を行っているか



回答医師自身が実際に検査や治療を行っているか

Base : 医療機関が検査や治療を行っている

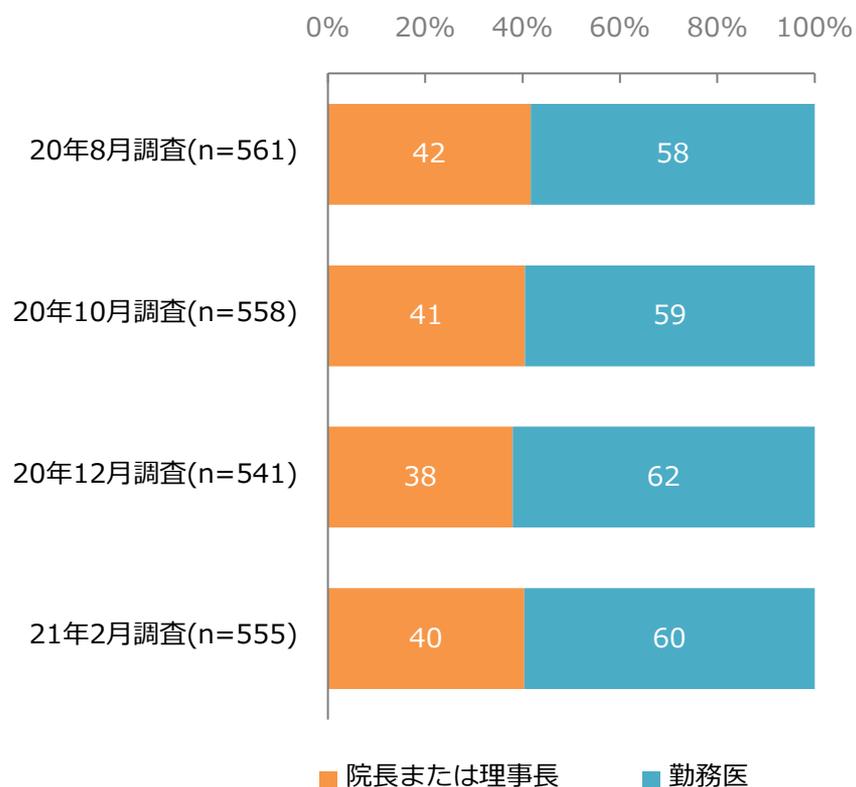


■ 検査、治療ともに行っている ■ 検査のみ行っている ■ 治療のみ行っている ■ どちらも行っていない

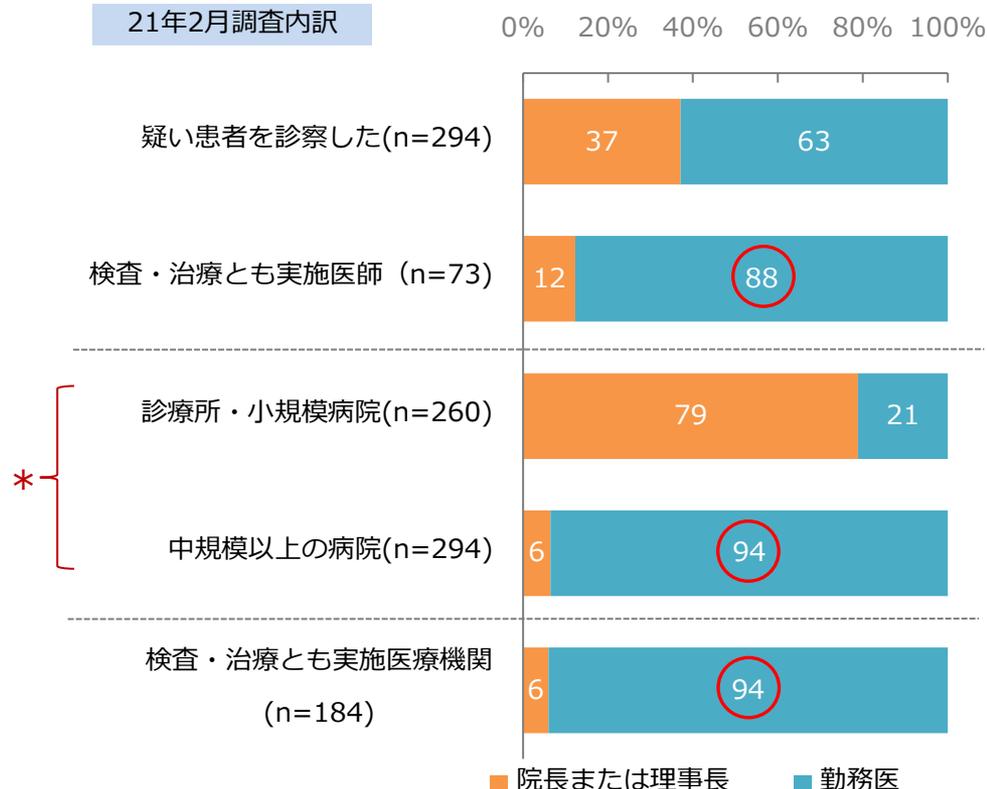
Q11. お勤めの医療機関では、新型コロナウイルス感染症の検査や患者の治療を、実際に行っていますか (SA, -/-/-/-/-/10月/12月/2月)
 Q12. 先生ご自身は、新型コロナウイルスへの感染が確認された患者の診察・治療を、実際に行っていますか (SA, -/-/-/-/-/-/12月/2月)

- 回答者の職責に大きな変化はなく、「院長または理事長」が4割、「勤務医」が6割と、勤務医がやや多い。
- 2月調査の内訳を見ると、「検査・治療とも実施医師」、中規模以上の病院、検査・治療とも実施医療機関では大多数が「勤務医」で、9割前後に達する。

医師の職責



21年2月調査内訳

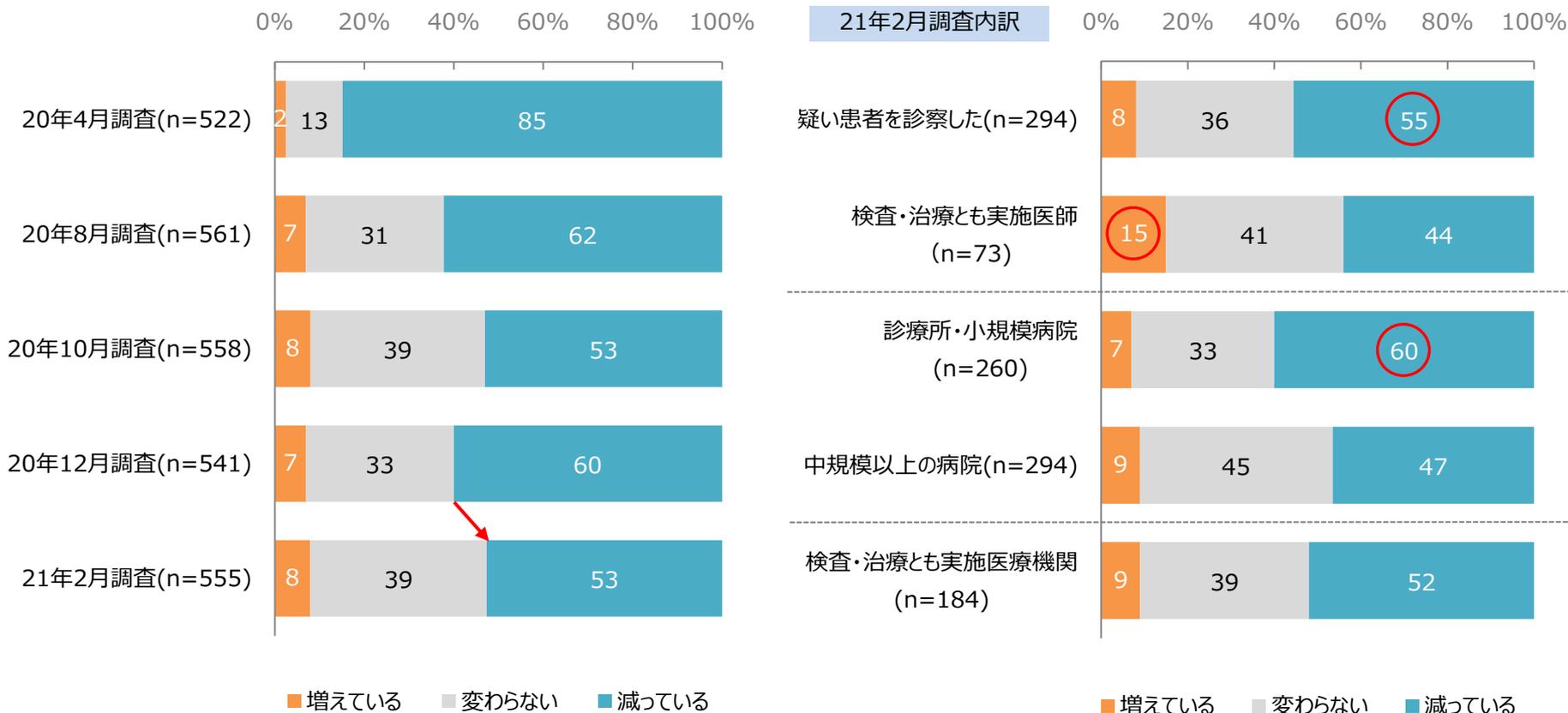


* 診療所・小規模病院：100床未満の医療機関、中規模以上の病院：100床以上の医療機関（以下同様）

Q1. 先生が主にお勤めの医療機関での、先生のお立場を教えてください (SA, --/5月/6月/8月/10月/12月/2月)

昨年同時期と比べた来院患者数の変化

- 昨年同時期との来院患者数比較では、4月調査時に85%に達していた「減っている」は、前回12月調査では6割に減少、今回はさらに7ポイント減少し53%となった。来院患者数の減少は下げ止まった様子。
- 2月調査の内訳を見ると、院長や理事長が多く含まれる診療所・小規模病院では、患者数が「減っている」との回答が高めで6割。疑い患者を診察した医師でも、55%が「減っている」としていた。
- 患者を検査・治療とも実施した医師で「増えている」が最も高い傾向が続いており、その割合は唯一1割を超えた。

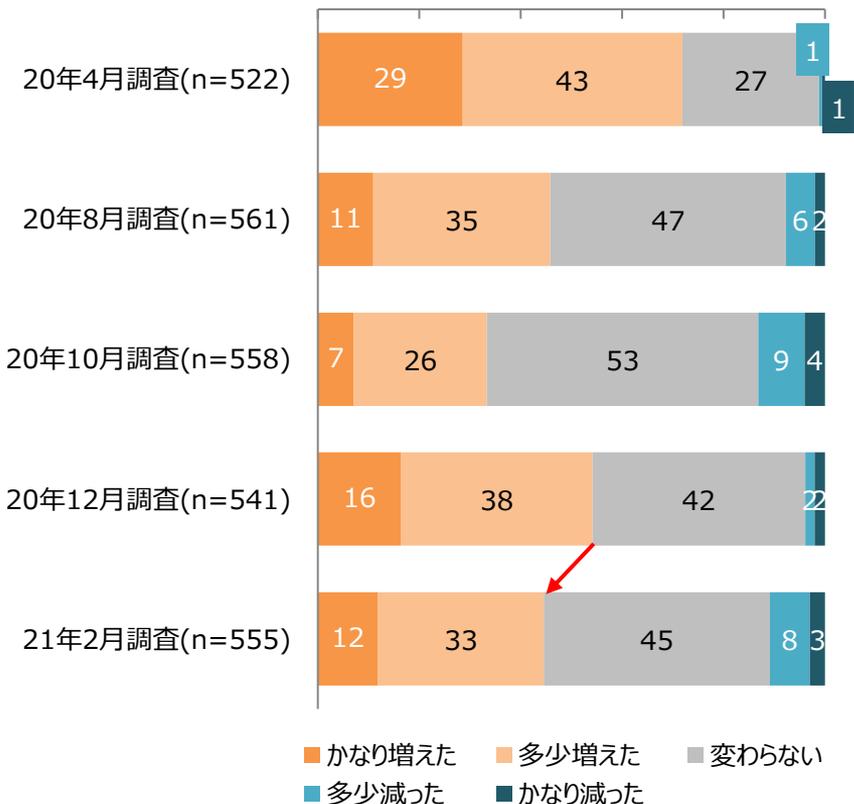


Q2. 昨年同時期に比べ、この期間の医療機関全体の来院患者数に変化は見られますか (SA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月/12月/2月)

新型コロナウイルスの相談や問い合わせの変化

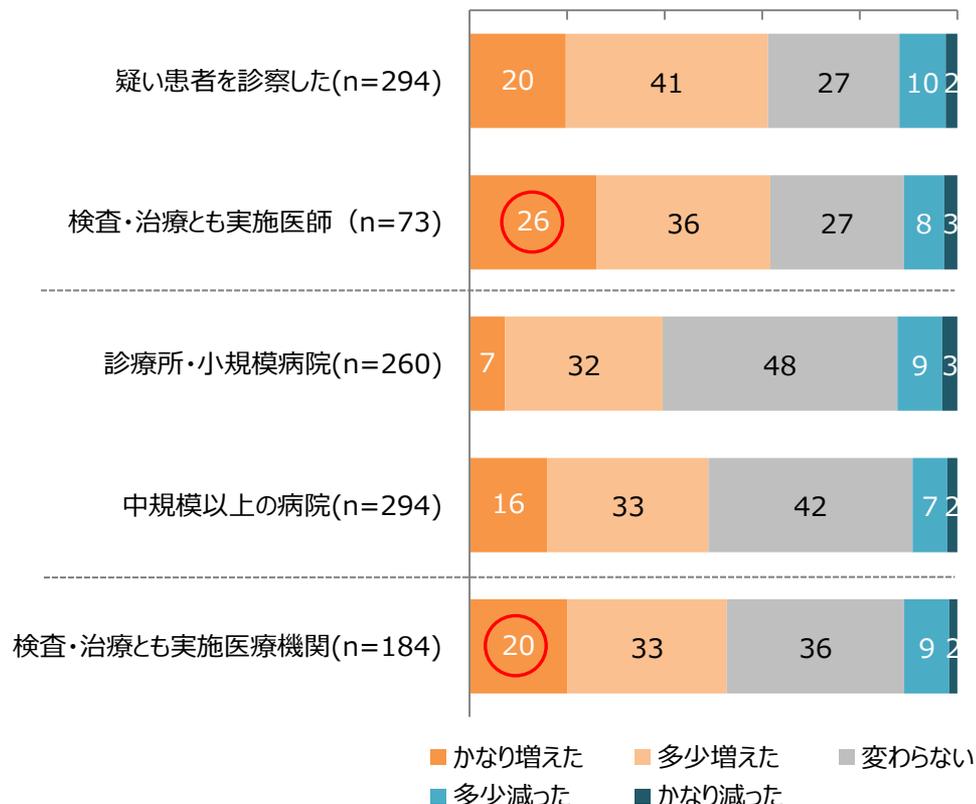
- 12月にかけて一旦は問合せが「増えた」(「かなり」、「多少」の計)が5割超となったが、今回は9ポイント減の4割超に留まる。第三波の影響で増加したものの、その後問い合わせ数自体はやや落ち着いたものとみられる。
- ただ検査・治療とも実施した医師では4分の1が、検査・治療とも実施医療機関の2割が、「かなり増えた」と回答している。

0% 20% 40% 60% 80% 100%



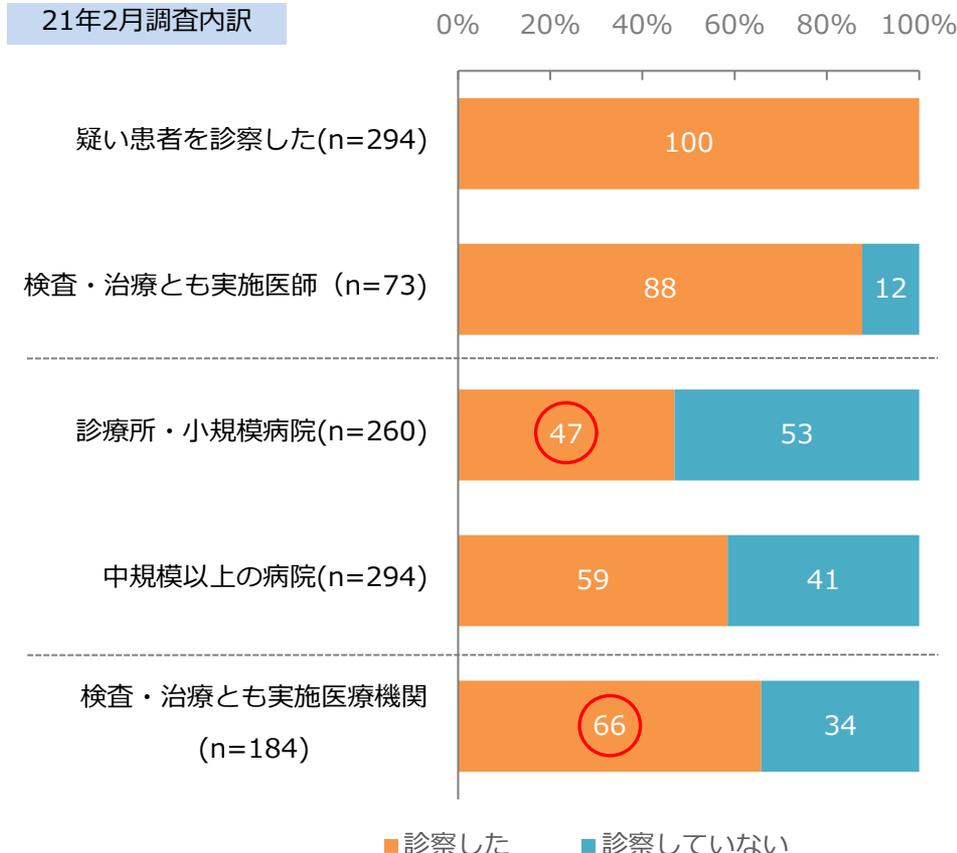
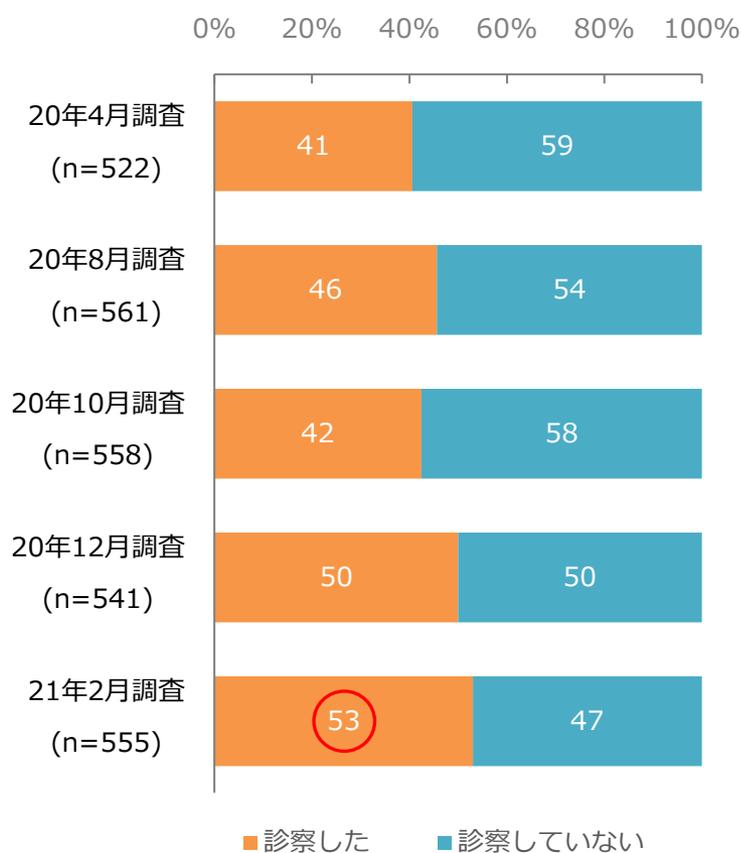
21年2月調査内訳

0% 20% 40% 60% 80% 100%



Q3. 先生のお勤めの医療機関では、この期間中、患者さんからの新型コロナウイルスについての相談や問い合わせは変化しましたか
(SA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月/12月/2月)

- 直近1ヶ月で疑い患者を「診察した」医師は、これまでの調査で最も多く5割超。かかりつけ医が発熱患者の診療・検査を担うことになった影響だろうか。
- 「診察した」医師は、「検査・治療とも実施医療機関」では66%を占め、診療所・小規模病院でも47%含まれた。

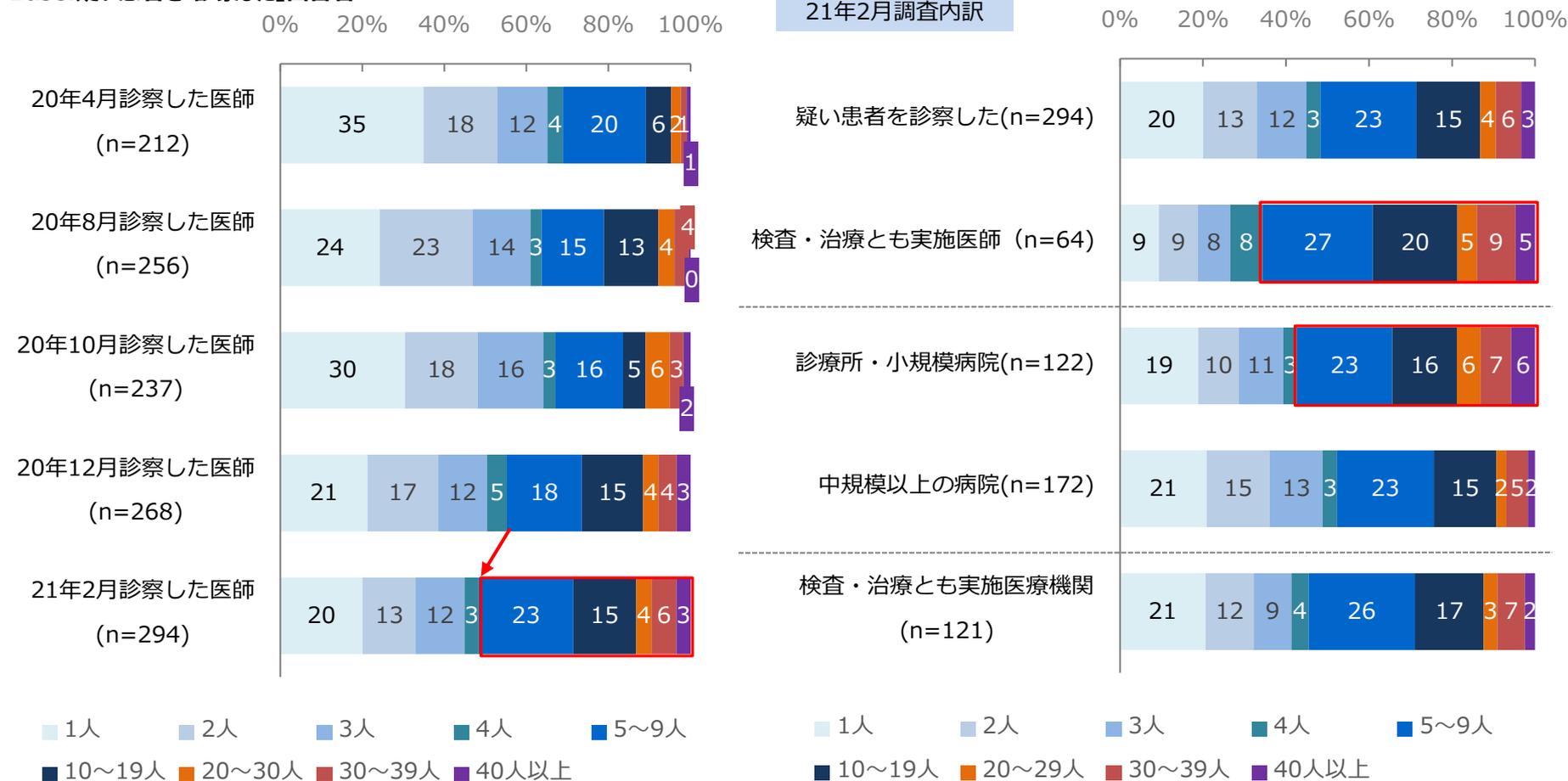


Q4. 先生は、この期間中、新型コロナウイルスに感染の疑いがある患者さんを実際に診察されましたか。診察された人数を教えてください (SA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月/12月/2月)

新型コロナウイルス感染症の疑い患者診察人数

- 1月下旬以降の1ヵ月間に診察した疑い患者数は、「5～9人」が12月調査時よりも増加し、「5人以上」診察した医師が半数を超えた。
- 検査・治療ともに実施した医師の診察人数内訳を見てみると、「5人以上」が3分の2を占める。
- 医療機関種別では、診療所・小規模病院でも、12月調査に比べ「20人以上」が9ポイント増加し(10%→19%)、「5人以上」で見ると6割弱を占めた。かかりつけ医を担う診療所や小規模病院へ診療対応施設が拡大してきている様子が窺える。

Base: 疑い患者を「診察した」回答者



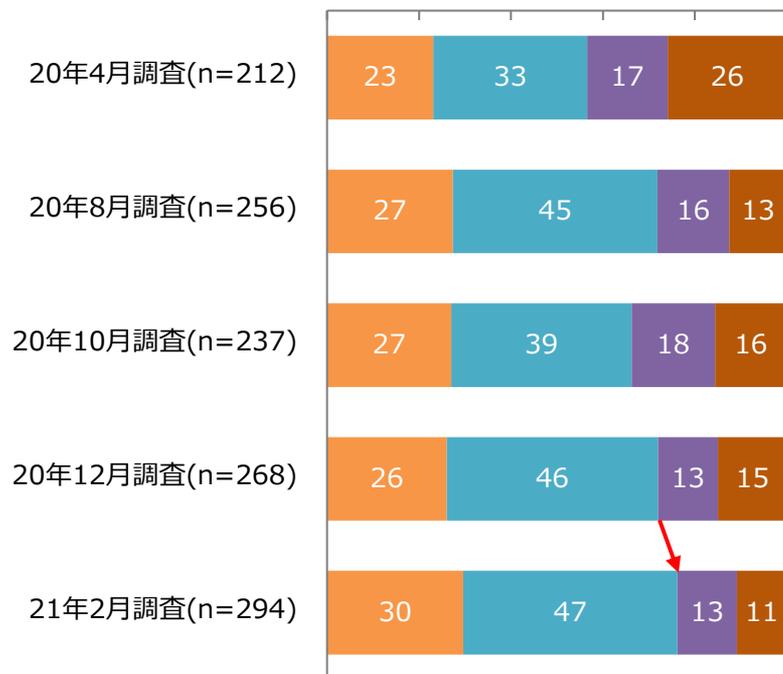
Q4. 先生は、この期間中、新型コロナウイルスに感染の疑いがある患者さんを実際に診察されましたか。診察された人数を教えてください (SA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月/12月/2月)

疑い患者の来院事前連絡有無

- 疑い患者の来院事前連絡は、「事前連絡がある」が10月以降、漸増傾向。「すべて事前連絡があった」は12月調査より4ポイント増え、3割。「事前連絡があるケースが多かった」と合わせると8割近くに達した。逆に言えば「事前連絡があるケースが少なかった」「全員事前連絡がなかった」の合算は、依然2割超ある。
- 検査・治療ともに実施の医師や、検査・治療とも実施医療機関で、「すべて事前連絡があった」が3分の1。

Base: 疑い患者を「診察した」回答者

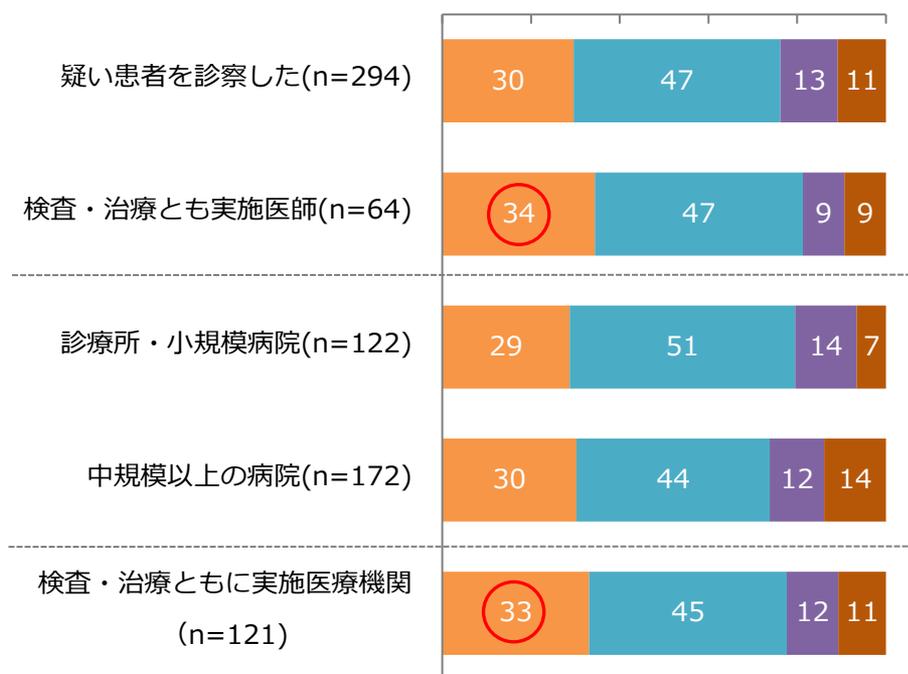
0% 20% 40% 60% 80% 100%



- すべて事前連絡があった
- 事前連絡があるケースが多かった
- 事前連絡があるケースが少なかった
- 全員事前連絡がなかった

21年2月調査内訳

0% 20% 40% 60% 80% 100%



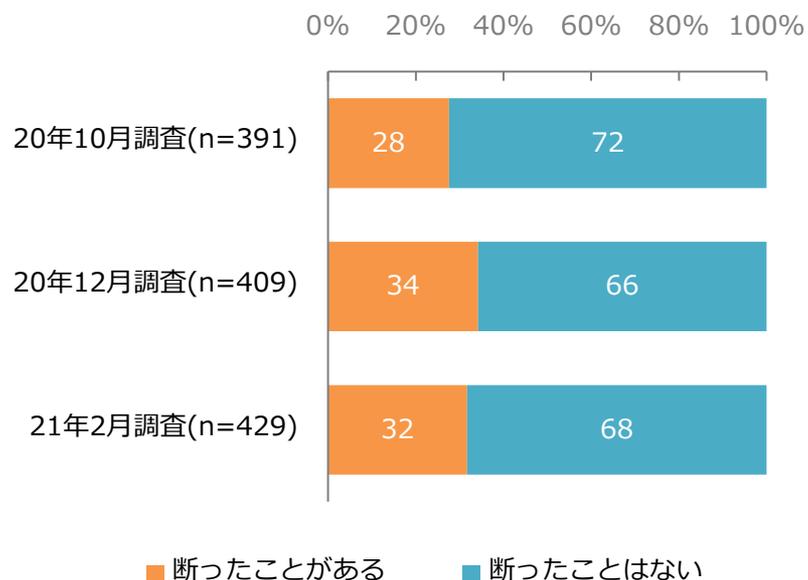
- すべて事前連絡があった
- 事前連絡があるケースが多かった
- 事前連絡があるケースが少なかった
- 全員事前連絡がなかった

Q5. 疑いのある患者さんは、事前に医療機関に電話やメールなどで連絡したうえで来院しましたか (SA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月/12月/2月)

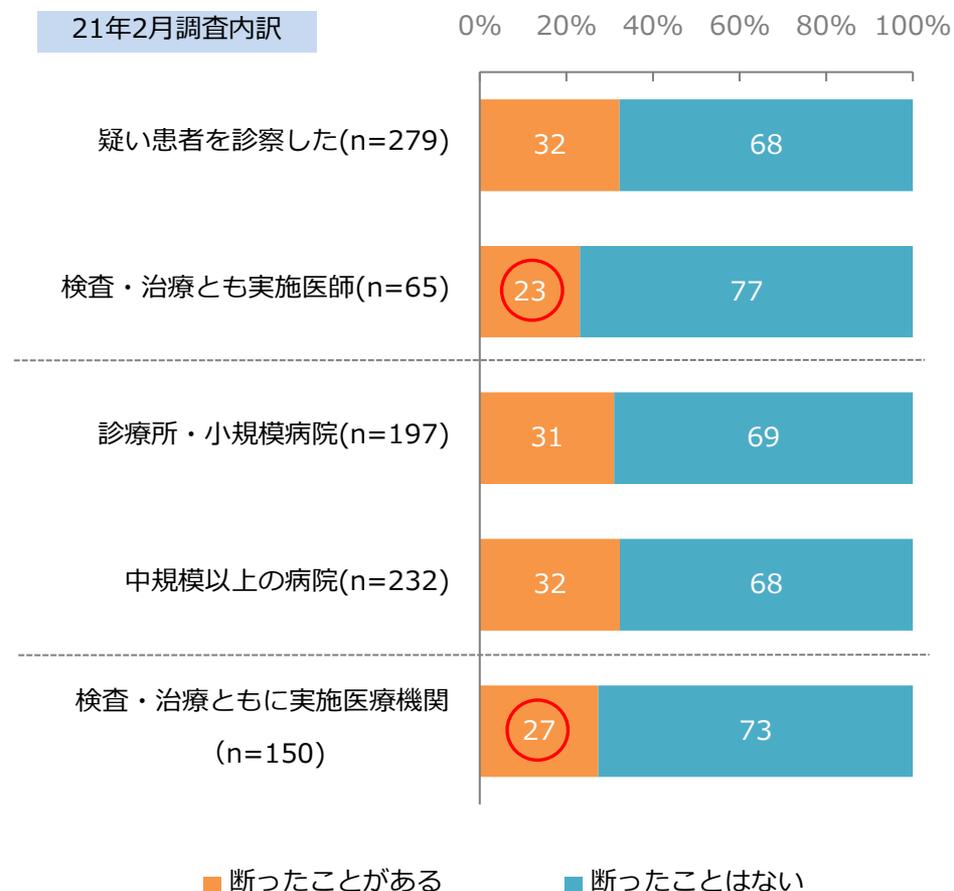
疑い患者の診察を断った経験

- 診察依頼があった医師に限ると「断ったことがある」とした医師は3割超と12月調査とほぼ同レベル。
- 診療機会が多い患者を検査・治療とも実施医師でも、23%が「断ったことがある」と回答。診療所・小規模病院、中規模以上の病院ともに3割超が「断ったことがある」と回答しており、医療機関の規模別では差はほぼみられなくなりつつある。

Base: Q6 診察依頼を受けた医師



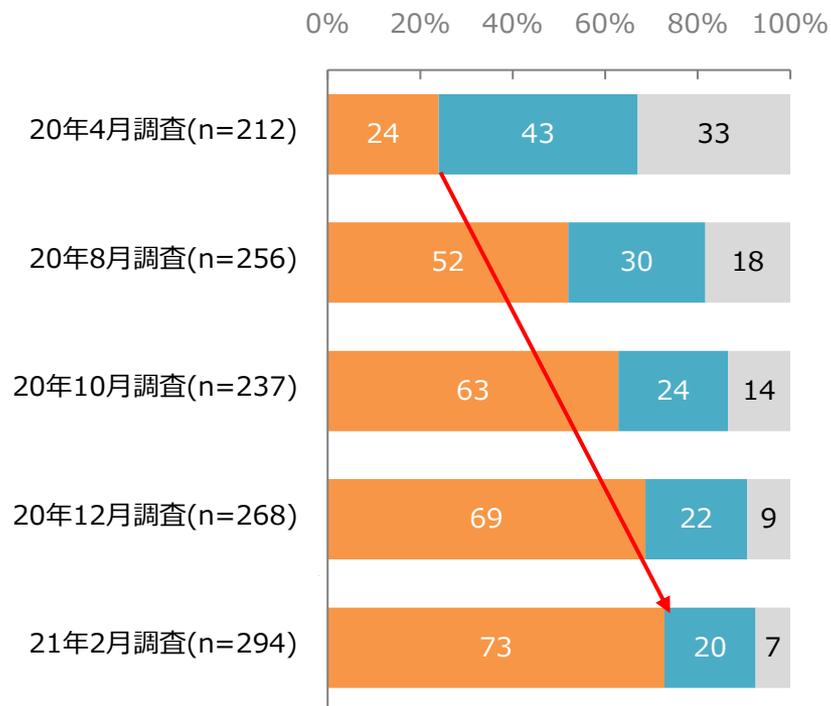
Base: Q6 診察依頼を受けた医師



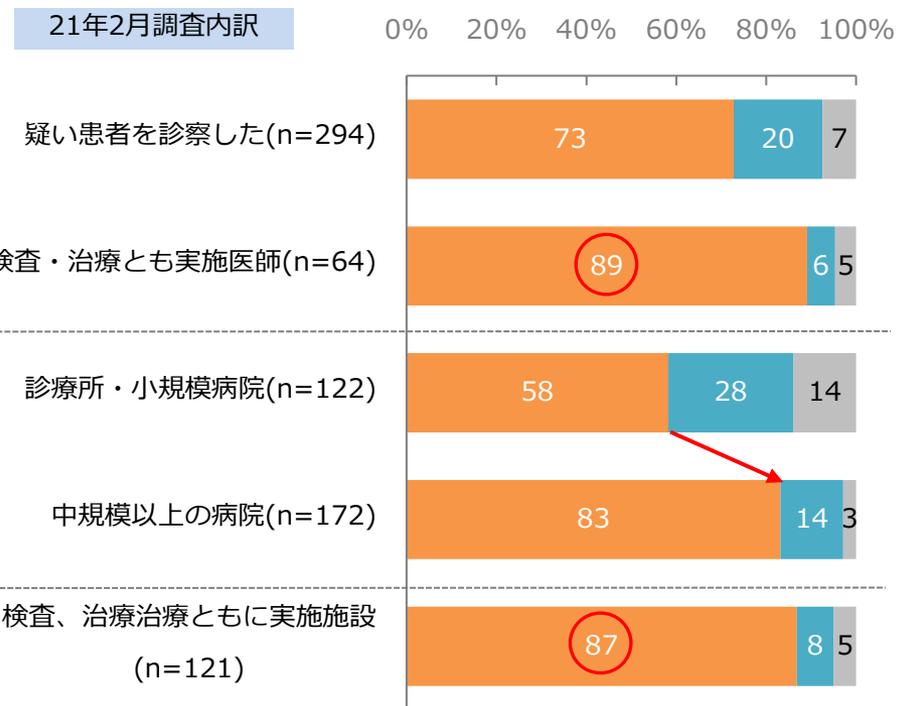
Q6. 疑いのある患者さんの診察を断ったケースがありますか (SA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月/12月/2月)

- 医師が「検査を必要と判断して、全て検査を行った」割合は、4月以降、漸増傾向にあり、2月調査では7割超に達した。
- 検査・治療とも実施医師と、検査・治療とも実施医療機関の中では、約9割が「全て検査を行った」と回答した。中規模以上の病院は、診療所・小規模病院に比べ25ポイント高い8割超が「全て検査を実施した」と回答。

Base: Q6 疑い患者を「診察した」回答者



Base: 「医師が検査を必要とした」回答者



- 医師が検査を必要と判断をして、全て検査を行った
- 医師が検査を必要と判断したが、検査は行えない場合があった
- 検査の必要性はなかった

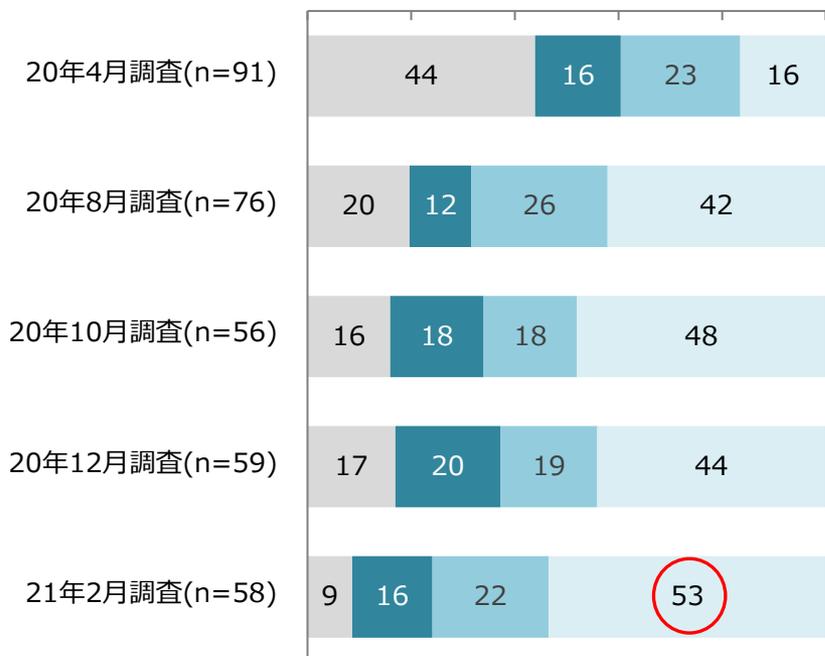
- 医師が検査を必要と判断をして、全て検査を実施できた
- 医師が検査を必要と判断したが、検査を実施できない場合があった
- 検査の必要性はなかった

Q7. この期間中、疑いのある患者さんに対し、新型コロナウイルスの検査を行われましたか。自院、外部検査機関などを問わず、実施の可否を教えてください (SA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月/12月/2月)

- 検査を行えない場合があった医師にその割合を尋ねた。「3割くらい以下」が半数を超え、12月に比べて9ポイント増加。「検査を全く行えなかった」割合がはじめて1割を切った。
- 医療機関種別はベースが少ないため参考値に留まるが、検査を行えなかった割合は、診療所・小規模病院で「3割以下」の回答が約6割を占め、中規模以上の病院よりも検査できているようだ。

Base:「医師が検査を必要と判断したが、検査は行えない場合があった」回答者

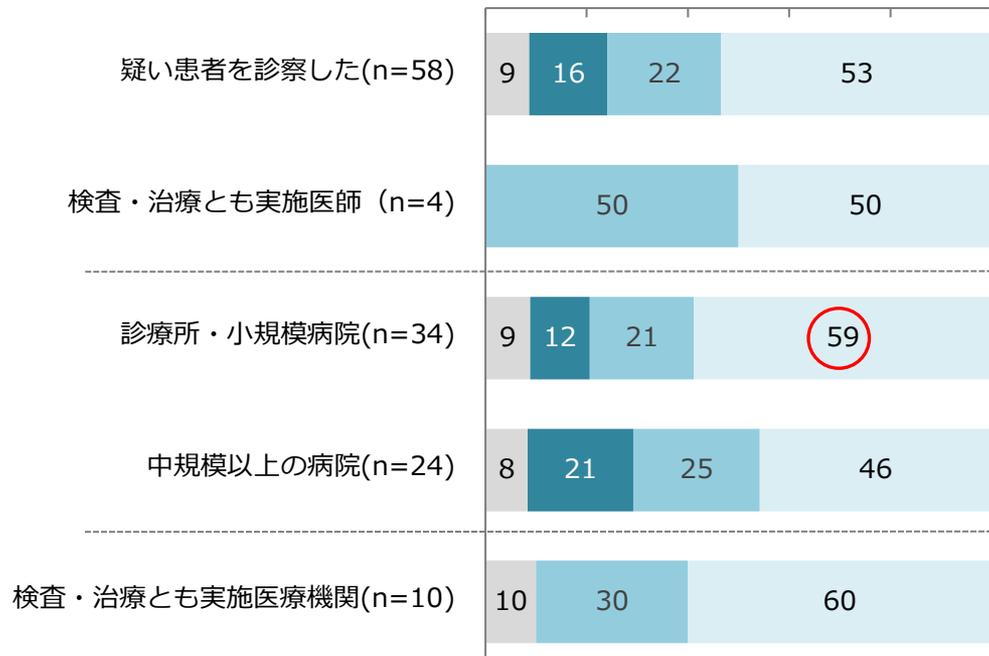
0% 20% 40% 60% 80% 100%



■ 全く行えなかった ■ 7割くらい以上
■ 4-6割くらい ■ 3割くらい以下

21年2月調査内訳

0% 20% 40% 60% 80% 100%



■ 全く行えなかった ■ 7割くらい以上
■ 4-6割くらい ■ 3割くらい以下

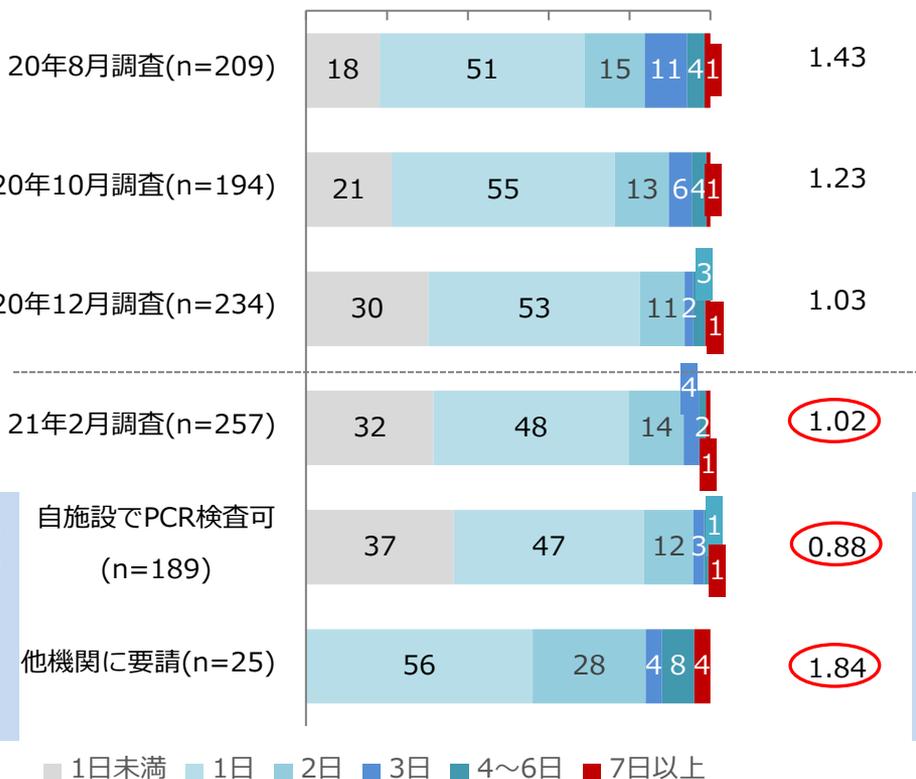
Q8. 検査が必要だった患者さんの検査が行えなかった割合を教えてください (SA, -/4月/5月/6月/8月/10月/12月/2月)

- 検査にかかる日数では、「依頼してから検査実施まで」は「1日」が約半数を占め、0日を含む平均日数は1.02日と12月時点と同レベル。「実施してから結果が出るまで」の日数も、「1日」が半数超で最も多く、平均日数は1.34日。12月時点より若干短く、8月以降短縮傾向が続いている。
- 可能な検査の回答別では、「自施設でPCR検査可」は、検査実施までが平均0.88日、検査後結果が出るまでが平均1.20日で、合計2日強。「他機関に要請する」とした回答者では、検査実施までが1.84日、検査後結果が出るまでが1.96日、合計3.8日近くかかっており、12月時点の3.2日よりやや遅くなっている。

「依頼してから検査実施まで」にかかる日数

Base:「医師が検査を必要とした」回答者

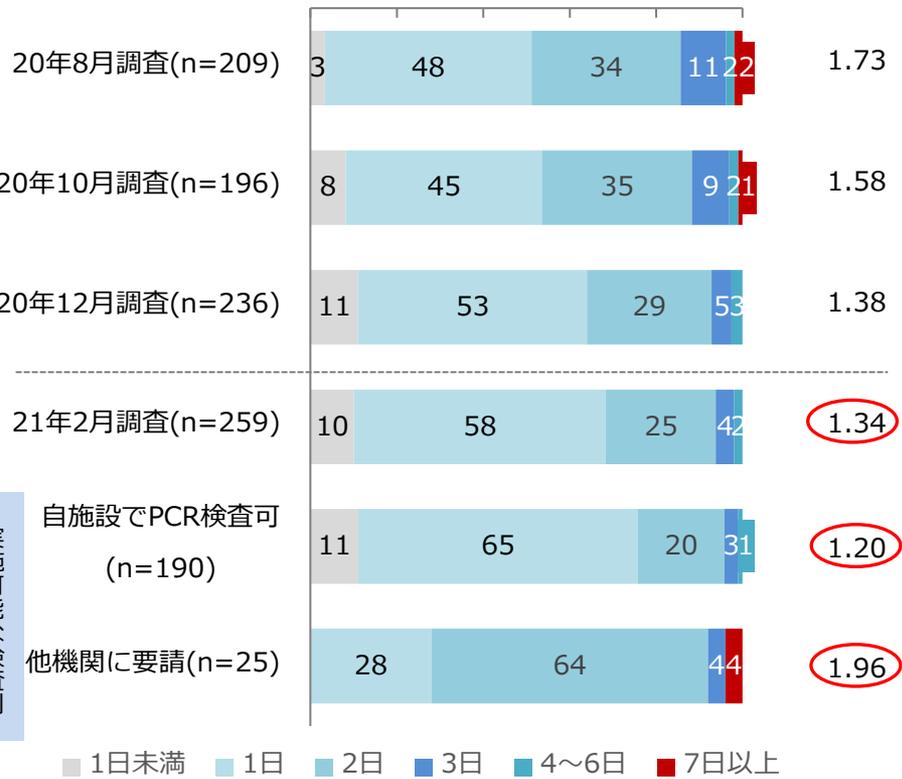
平均日数
0% 20% 40% 60% 80% 100% (0日を含む)



「実施してから結果が出るまで」にかかる日数

Base:「医師が検査を必要とした」回答者

平均日数
0% 20% 40% 60% 80% 100% (0日を含む)

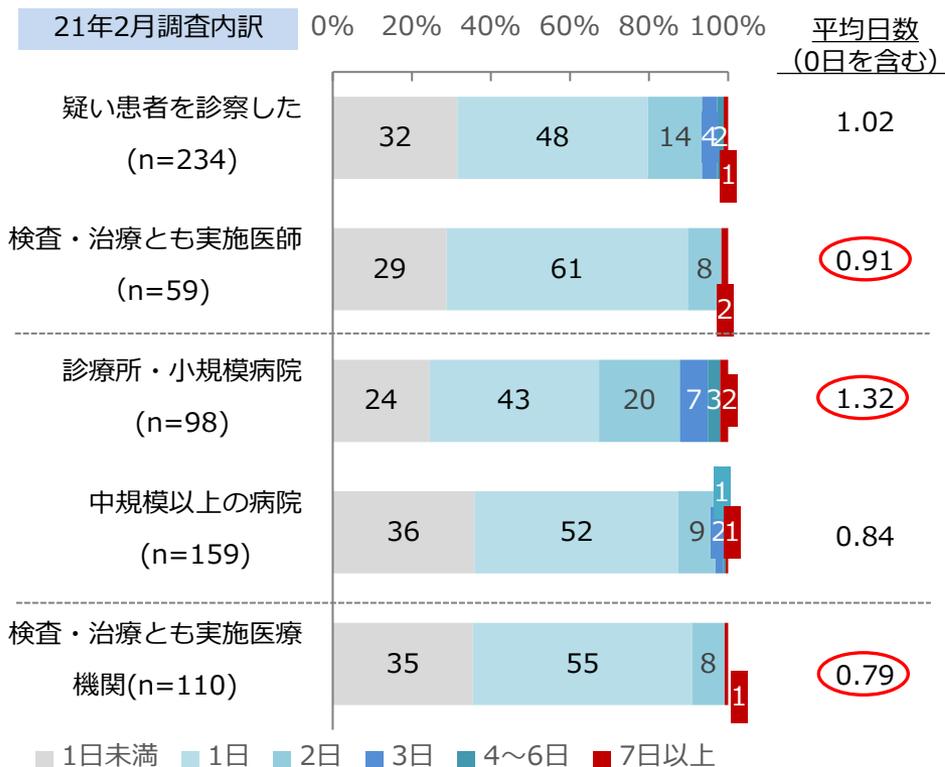


Q9_1. 新型コロナウイルス感染が疑われる患者のPCR検査を依頼後、実際に検査が行われ、結果が分かるまでに日数がかかると言われています。お勤めの医療機関でのPCR検査、または、お勤めの医療機関経由で他の医療機関や保健所などへ委託される場合のPCR検査にかかる日数を教えてください / Q9_2. お勤めの医療機関でのPCR検査、または、お勤めの医療機関経由で他の医療機関や保健所などへ委託される場合のPCR検査にかかる日数を教えてください (OA, -/-/-/8月/10月/12月/2月)

- 勤務先医療機関が検査・治療ともに実施しているケースは一貫して「依頼してから検査実施まで」の平均日数が最も短く、0.79日。「実施してから結果が出るまで」の1.05日との合計で2日を切っている。患者を検査・治療とも実施した医師も、それぞれ0.91日、1.09日で、合計2日。
- 医療機関種別で見ると、診療所・小規模病院で「検査実施まで」が平均1.32日、「実施してから結果が出るまで」が1.61日で、合計3日程度かかっているようだ。

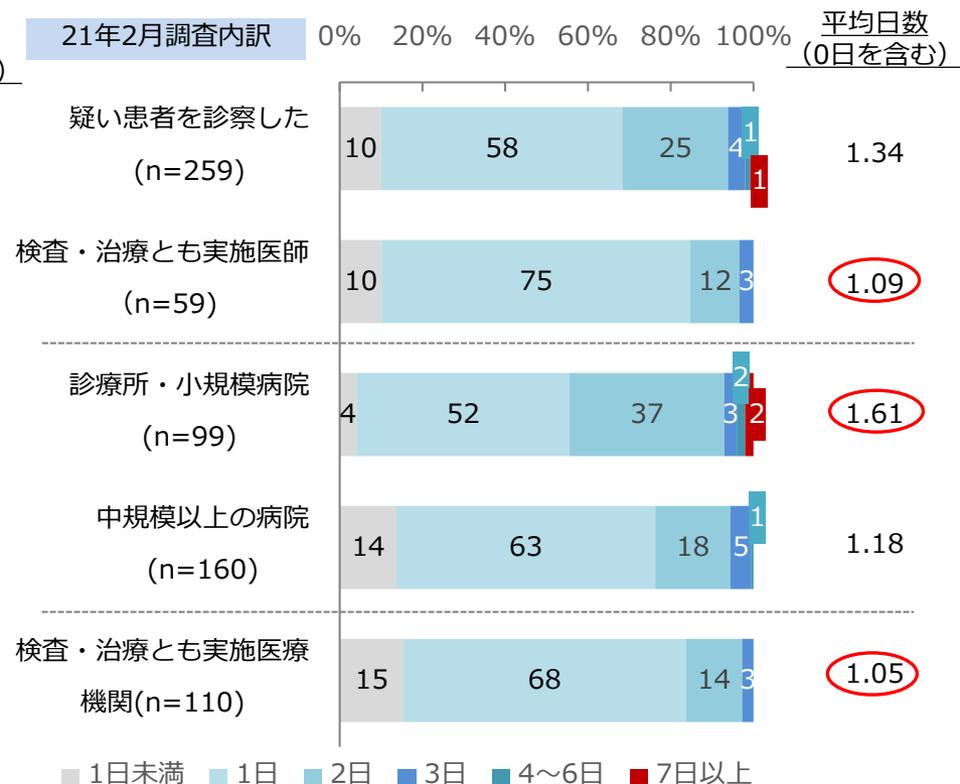
「依頼してから検査実施まで」にかかる日数

Base:「医師が検査を必要とした」回答者



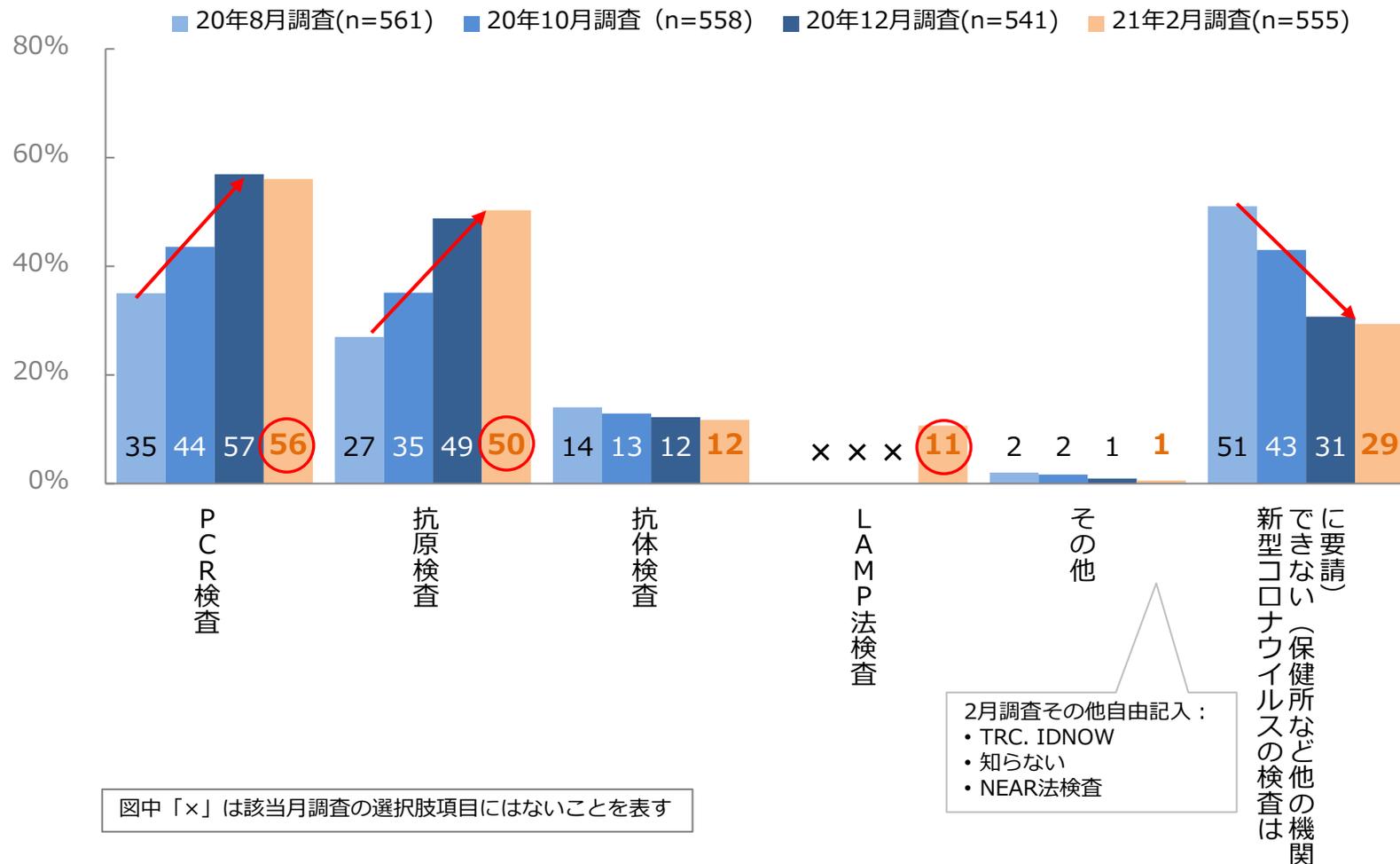
「実施してから結果が出るまで」にかかる日数

Base:「医師が検査を必要とした」回答者



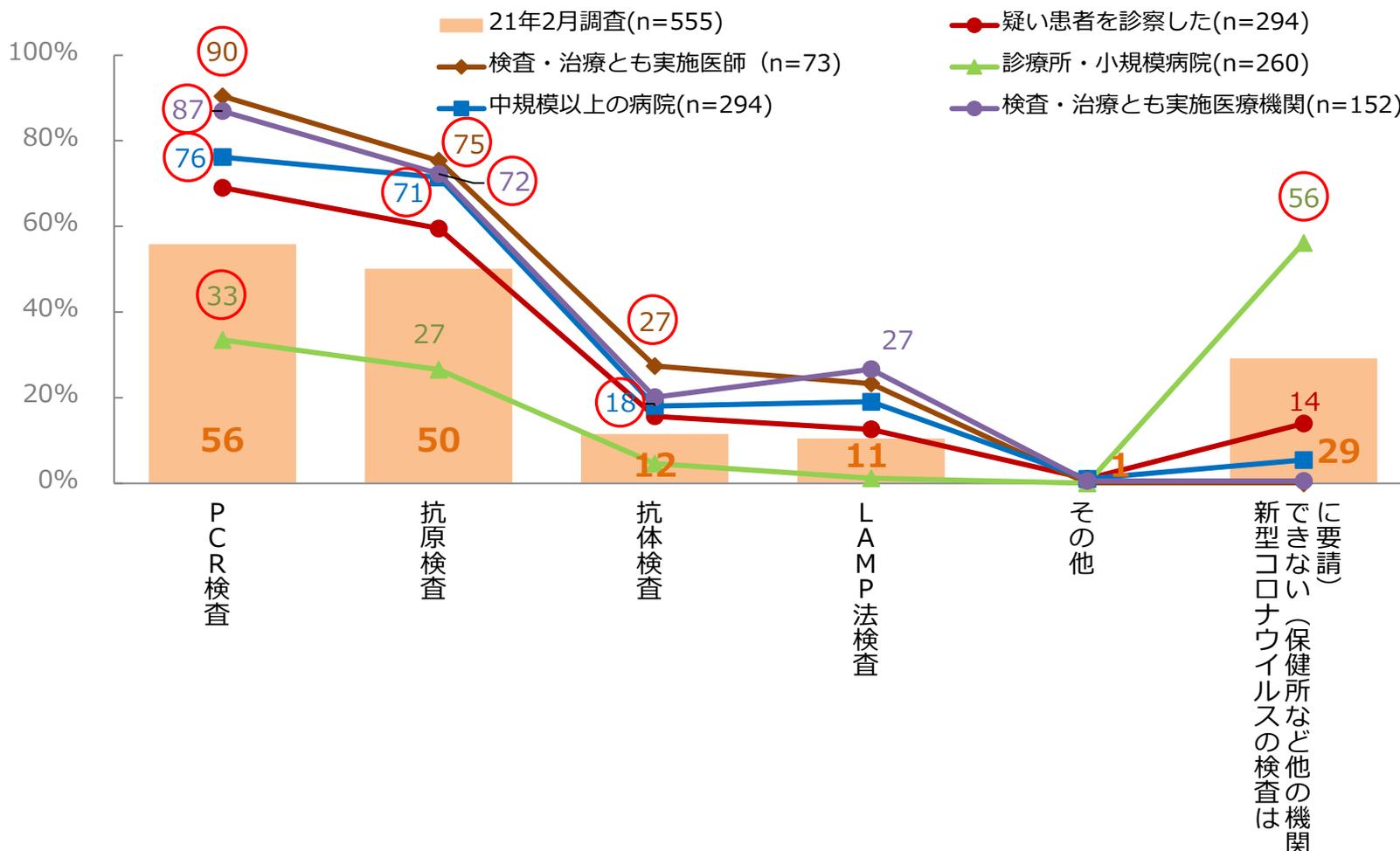
Q9_1. 新型コロナウイルス感染が疑われる患者のPCR検査を依頼後、実際に検査が行われ、結果が分かるまでに日数がかかると言われています。お勤めの医療機関でのPCR検査、または、お勤めの医療機関経由で他の医療機関や保健所などへ委託される場合のPCR検査にかかる日数を教えてください / Q9_2. お勤めの医療機関でのPCR検査、または、お勤めの医療機関経由で他の医療機関や保健所などへ委託される場合のPCR検査にかかる日数を教えてください (OA, -/-/-/8月/10月/12月/2月)

- 勤めている医療機関で実施可能な検査を聞いた。実施可能な検査別にみると、「PCR検査」が最も高く全体の56%が選択、次いで「抗原検査」が50%、「抗体検査」は12%と、いずれも12月とほぼ同レベル。2月調査で追加した「LAMP法検査」も11%が選択した。
- 「新型コロナウイルスの検査はできない(他の機関に要請)」は51%→43%→31%→29%と減少傾向が続いている。12月以降は検査可能施設の拡充ペースが鈍化しているようだ。



Q10. 先生がお勤めの医療機関における新型コロナウイルスの検査体制についてお伺いします。お勤めの医療機関で実施可能な検査を教えてください
 (MA, -/-/-/-/8月/10月/12月/2月)

- 患者を検査・治療とも実施の医師が全般的に高めで、PCR検査を9割、抗原検査が7割超、抗体検査は3割弱が選択している。検査・治療とも実施医療機関も高く、PCR検査は87%、抗原検査を7割超が選択した。
- 医療機関の規模別では、中規模以上の病院と診療所・小規模病院の選択率の著しい差が8月以降一貫してみられる。2月調査では、中規模以上の病院は、PCR検査を76%、抗原検査を7割超、抗体検査を2割弱が実施可能と回答。一方診療所・小規模病院は、最も高いPCR検査でも3割超。「検査はできない」も未だ過半数を占めている。診療所・小規模病院では、対応可能な検査に限られる実態がみてとれる。

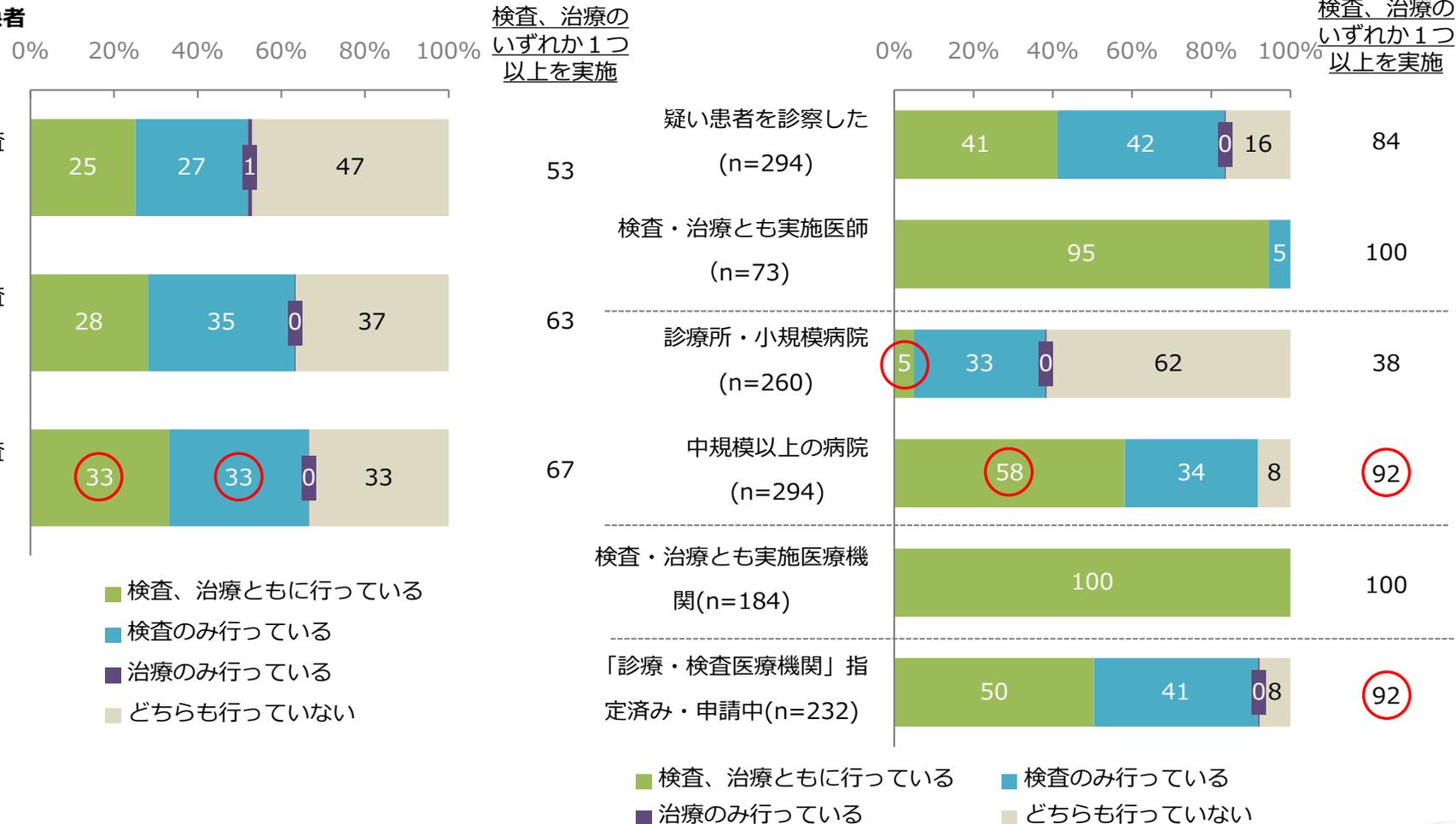


Q10. 先生がお勤めの医療機関における新型コロナウイルスの検査体制についてお伺いします。お勤めの医療機関で実施可能な検査を教えてください
(MA, -/-/-/-/8月/10月/12月/2月)

医療機関で実際に検査や治療を行っているか

- 勤め先の医療機関で実際に検査や治療を行っているかを聞くと、「検査・治療ともに行っている」「検査のみ行っている」「どちらも行っていない」がいずれも33%と、3等分のかたちとなった。「治療のみ行っている」は0.2%。12月時点よりも「検査、治療ともに行っている」が5ポイント増えた。
- 「検査、治療ともに行っている」の割合は、中規模以上の病院が58%であるのに対し、診療所・小規模病院は5%に留まり、医療機関種別により大きな開きがある傾向が続いている。「検査のみ行っている」34%を含めると、中規模以上の病院の9割超が検査または治療を行っている。
- 指定済み・申請中の「診療・検査医療機関」で見ても、9割以上が検査や治療を行っている。

Base:全対象者



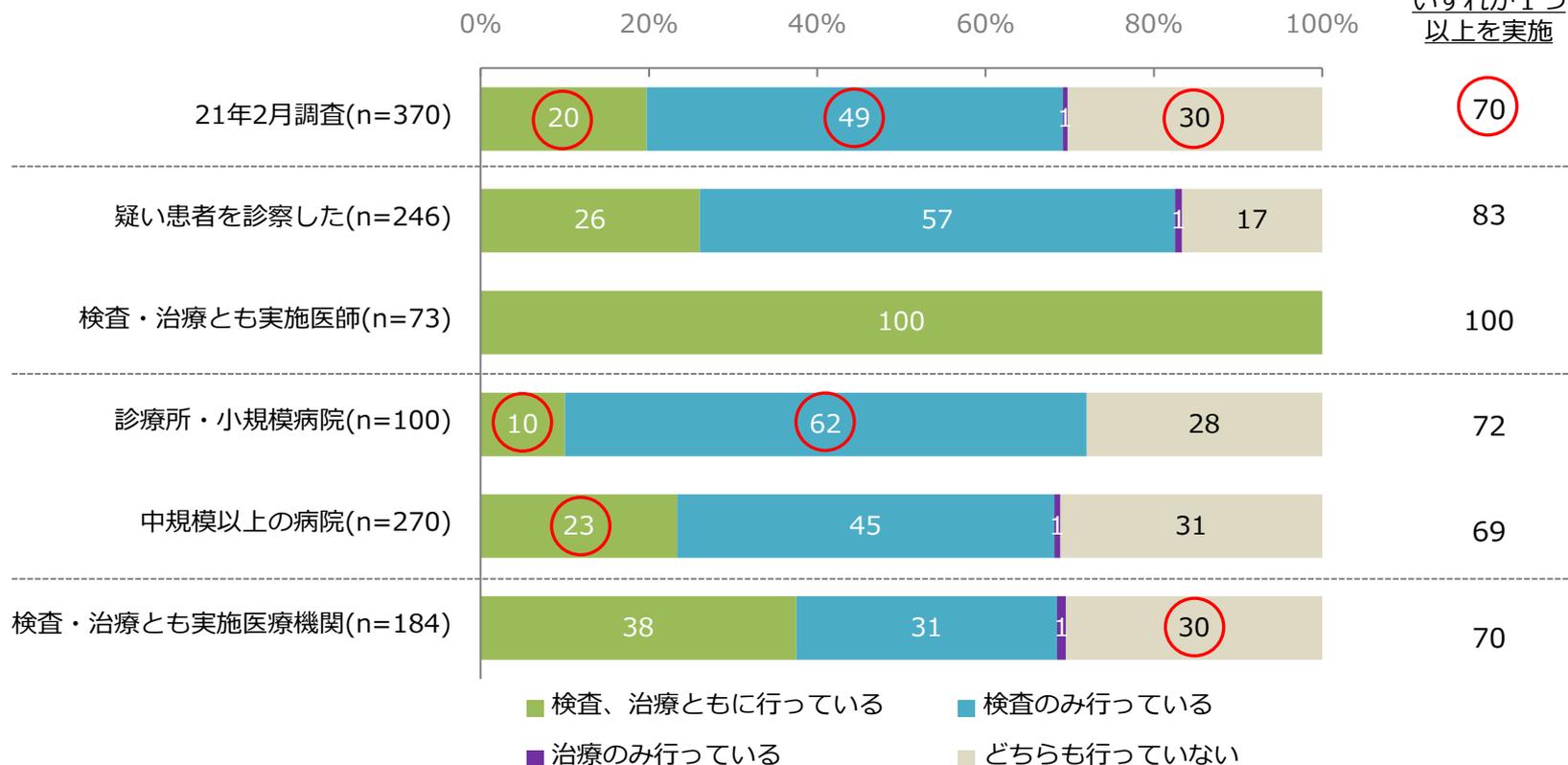
Q11. お勤めの医療機関では、新型コロナウイルス感染症の検査や患者の治療を、実際に行っていますか (SA, -/-/-/-/-/10月/12月/2月)

先生自身が実際に診察・治療を行っているか

- 医療機関で検査や治療を行っていると回答した医師に、自身が実際に診察・治療を行っているかを聞くと、「検査・治療とも実施」が20%、「検査のみ」が半数弱をあわせて7割を占めた。「どちらも行っていない」医師も3割含まれる。
- 医療機関規模別では、自身が「検査・治療ともに」行っている割合は、中規模以上の病院では23%であるのに対し、診療所・小規模病院では10%に留まる。「検査のみ行っている」医師は、診療所・小規模病院では6割超、中規模以上の病院では半数近くであった。専門分野に分かれた勤務医の割合が多い、検査・治療とも実施の医療機関では、「どちらも行っていない」の回答が、3割を占める。

Base: 検査や治療を行っている医療機関に勤める医師

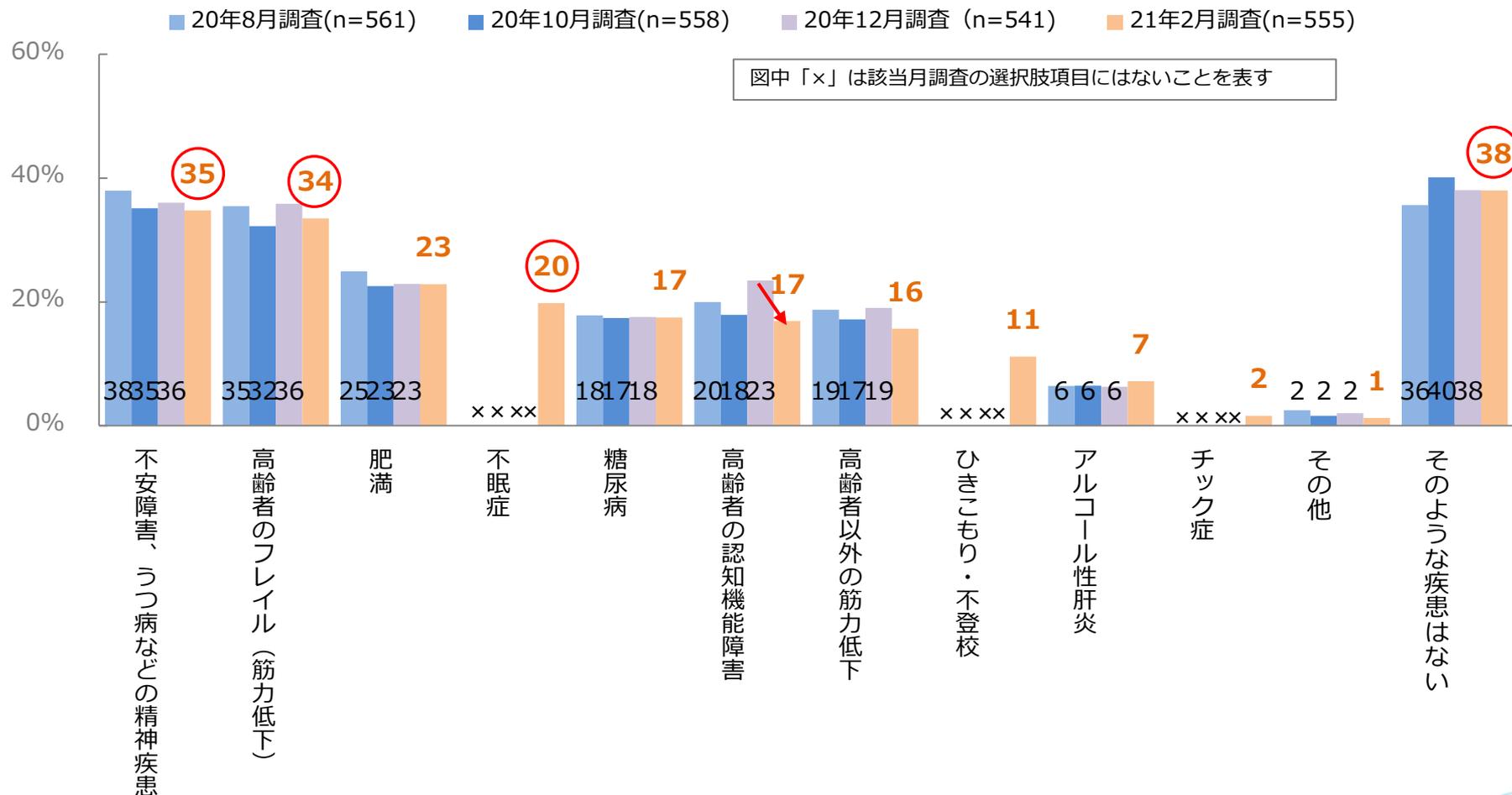
検査、治療の
いずれか1つ
以上を実施



Q12. 先生ご自身は、新型コロナウイルスへの感染が確認された患者の診察・治療を、実際に行っていますか (SA, --/--/--/--/12月/2月)

増えつつある、症状が深刻化しつつある疾患

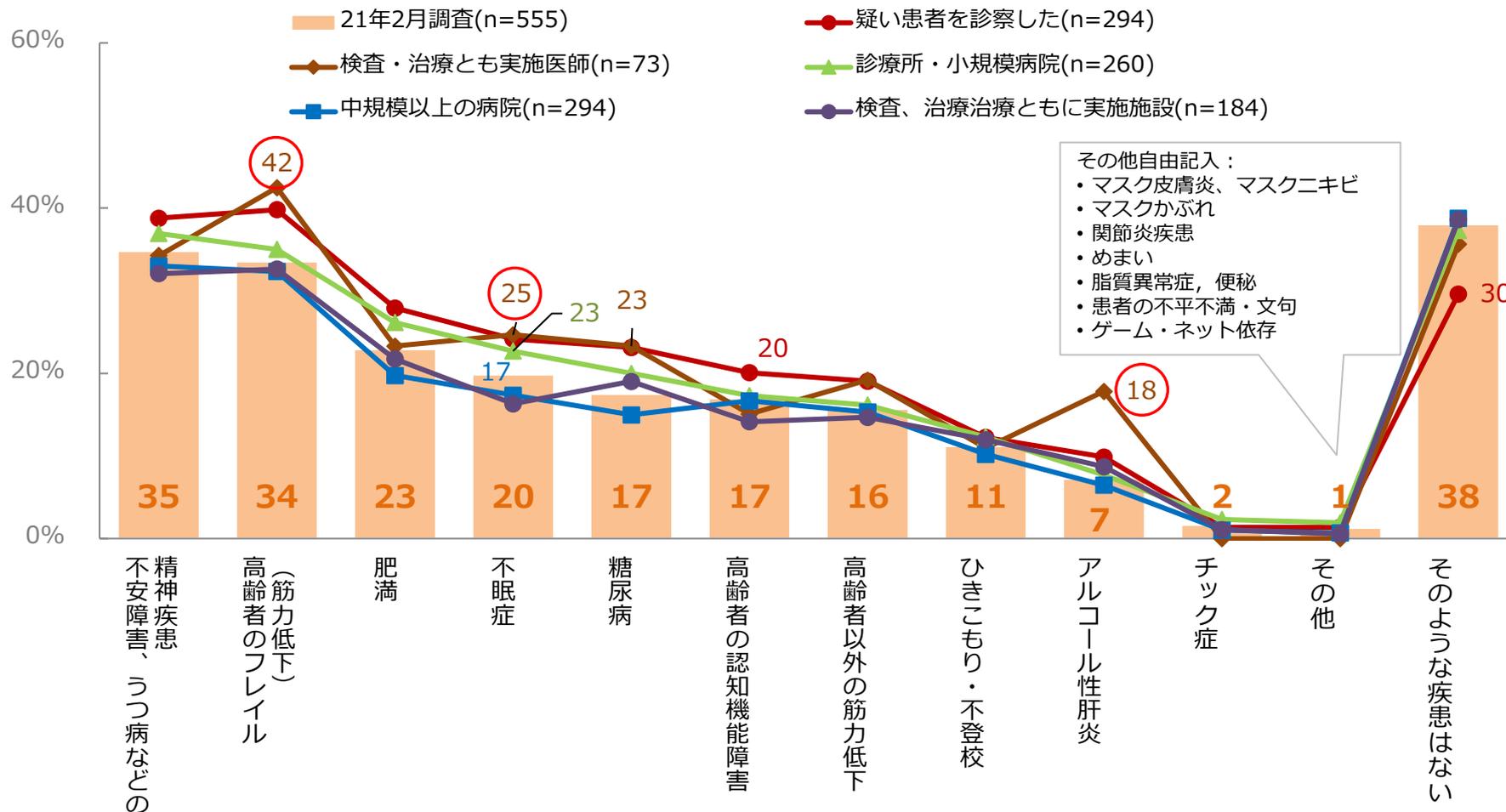
- 新型コロナウイルスの流行や生活環境の変化で「増えつつある、症状が深刻化しつつある疾患」は、全般的に選択率が12月調査とほぼ同レベルにあり、「そのような疾患はない」は4割弱。
- 最も高かったのは「精神疾患」で、35%の医師が選択していた。「高齢者のフレイル」も34%。「高齢者の認知機能障害」は、12月調査時点より選択率が微減し、17%。一方で、2月調査で追加した「不眠症」が2割。流行の長期化、再度の緊急事態宣言などの影響で精神疾患が深刻化した人や「コロナうつ」を訴える人の受診が増えているようだ。



Q13. 新型コロナウイルスの流行、生活環境の変化などで、今増えつつある、症状が深刻化しつつある疾患をすべてお選びください
(MA, -/-/-/6月/8月/10月/12月/2月)

増えつつある、症状が深刻化しつつある疾患

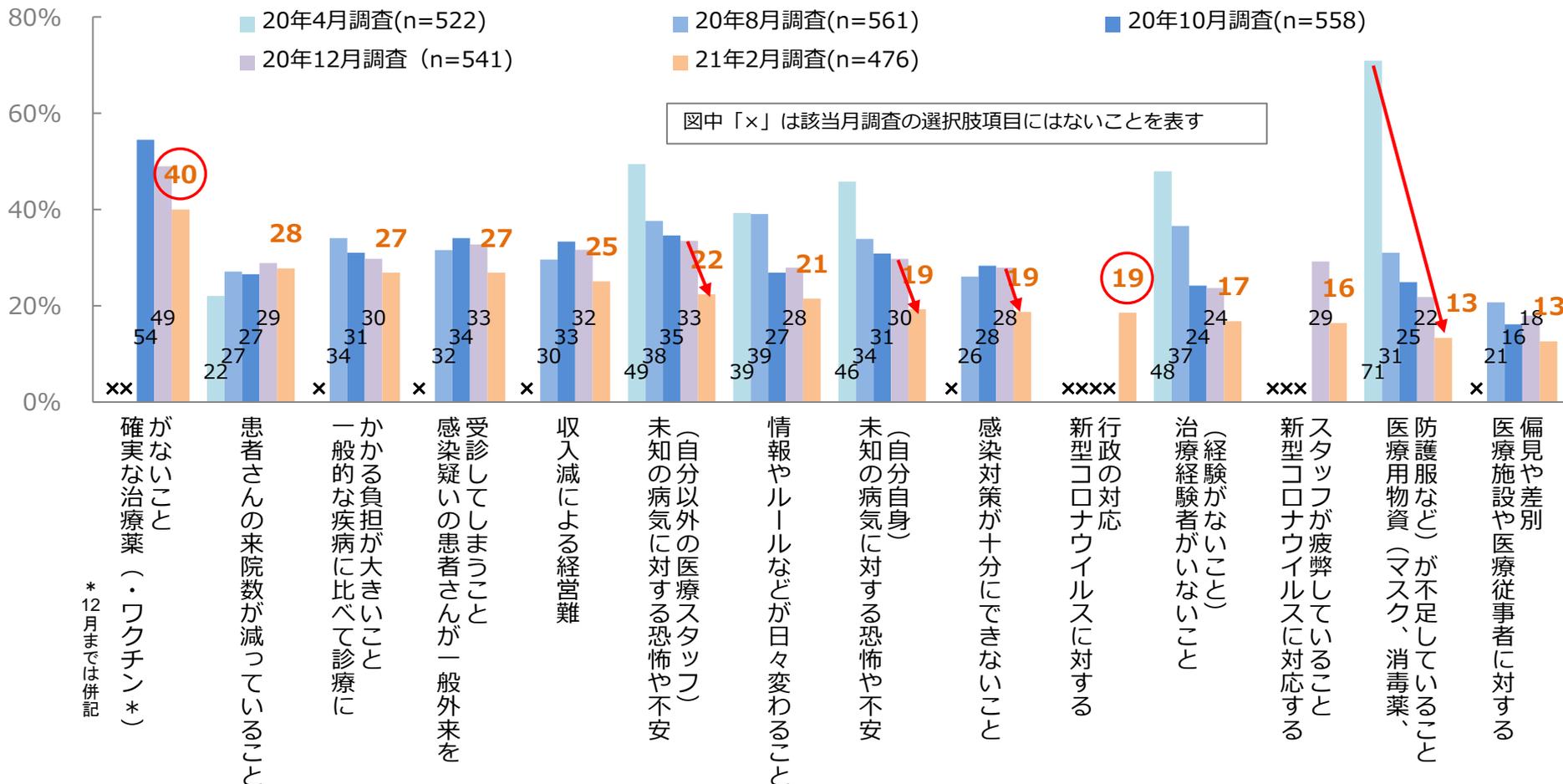
- 感染患者を検査・治療ともに実施医師の選択率が全般的にやや高め。特に「高齢者のフレイル」は選択率が42%に上り、「アルコール性肝炎」も18%と相対的に高め。
- 医療機関種別では、前回の調査時に比べ、診療所・小規模病院が、中規模病院の選択率よりやや高めの傾向。「不眠症」は中規模病院より6ポイント高い。診療所・小規模病院が感染症以外の外来患者の診察にも広くあたっているためと思われる。



Q13. 新型コロナウイルスの流行、生活環境の変化などで、今増えつつある、症状が深刻化しつつある疾患をすべてお選びください
 (MA, -/-/-/6月/8月/10月/12月/2月)

医療現場で困っていること 1

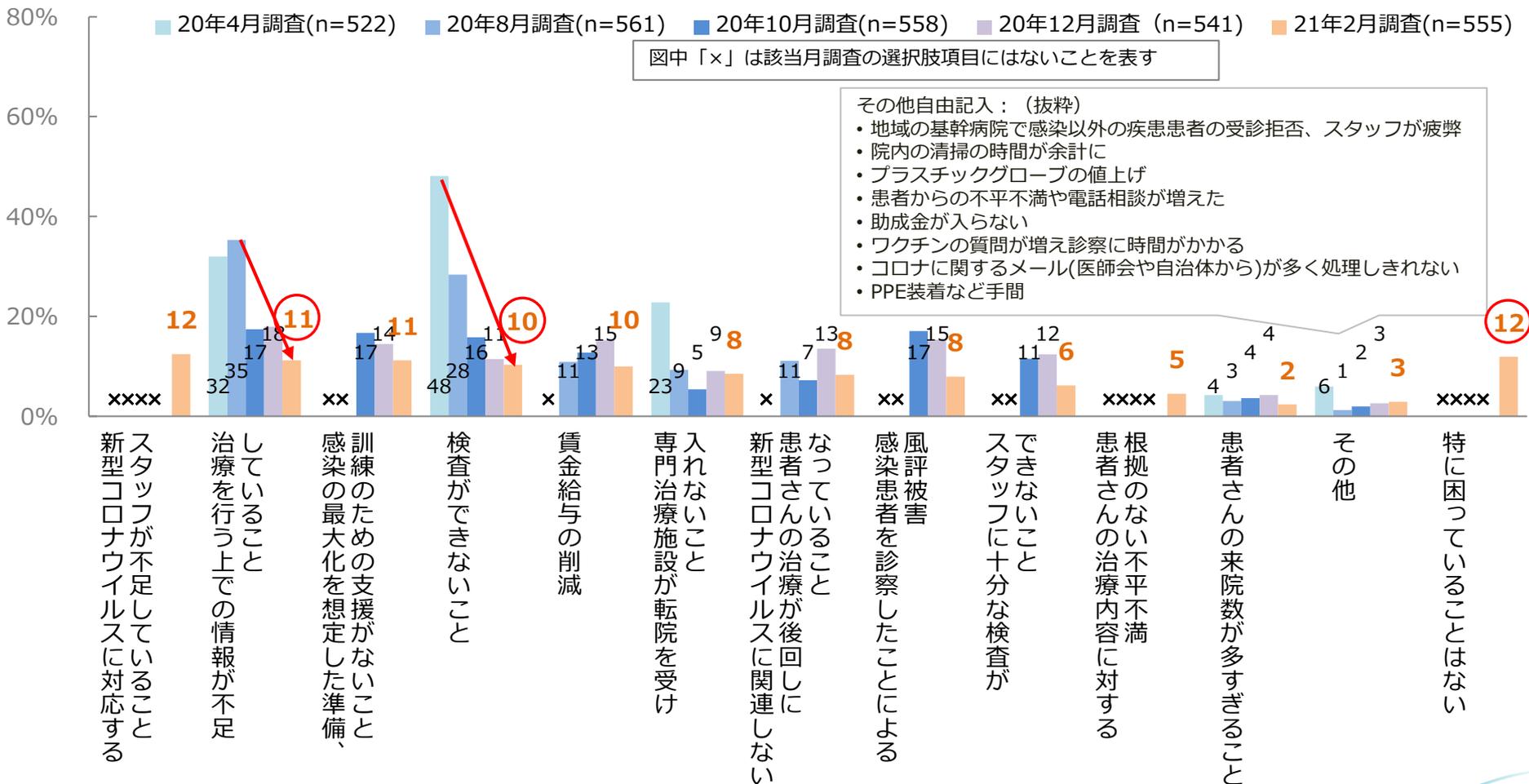
- 医療現場で困っていることを選択率は、全体的にやや下降傾向が続く。12月に引き続き「確実な治療薬がないこと」が最も多いが、9ポイント減の4割となった。「来院患者数が減っている」「一般的な疾病に比べて診療にかかる負担が大きい」「感染疑いの患者が一般外来を受診」が、3割弱で続く。
- 4月時点で最も多かった「医療用物資の不足」は4月から大きく減少、12月から9ポイント減で1割程度となった。また、12月に比べ「未知の病気に対する恐怖や不安」は、自分以外の医療スタッフ、自分自身ともに10ポイント以上減少。現実の診療を対策とともに継続する中で、漠然とした不安感は払しょくされてきている様子。また、2月調査で追加した、「新型コロナウイルスに対する行政の対応」は、約2割が選択した。



Q14. 最前線で「新型コロナウイルス」に対応する医師として、今、現場で先生が特に困っていることはなんですか。あてはまるものをすべてお選びください
(MA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月/12月/2月)

医療現場で困っていること_2

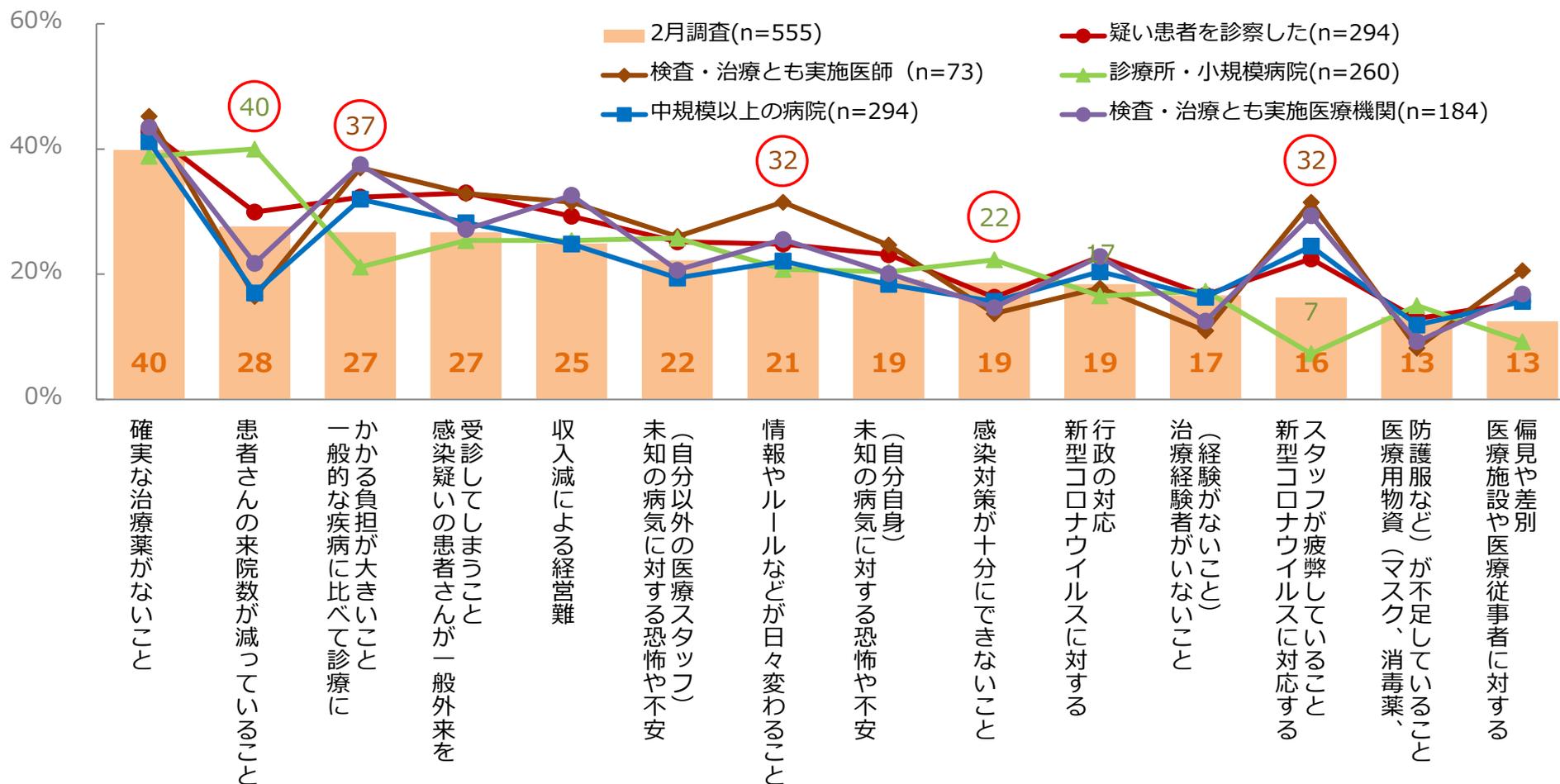
- 医療現場で困っていることを選択率下位を見ると、4月時点では2番目に多かった「検査ができないこと」も漸減し12月にひき続き、1割に留まる。「治療を行う上での情報が不足している」も8月以降減少し、1割台。2月に追加した、「新型コロナウイルスに対応するスタッフが不足している」は12%に上る。
- 全般的に12月時点より選択率が低く、「特に困っていることはない」が12%であった。



Q14. 最前線で「新型コロナウイルス」に対応する医師として、今、現場で先生が特に困っていることはなんですか。あてはまるものをすべてお選びください (MA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月/12月/2月)

医療現場で困っていること_1

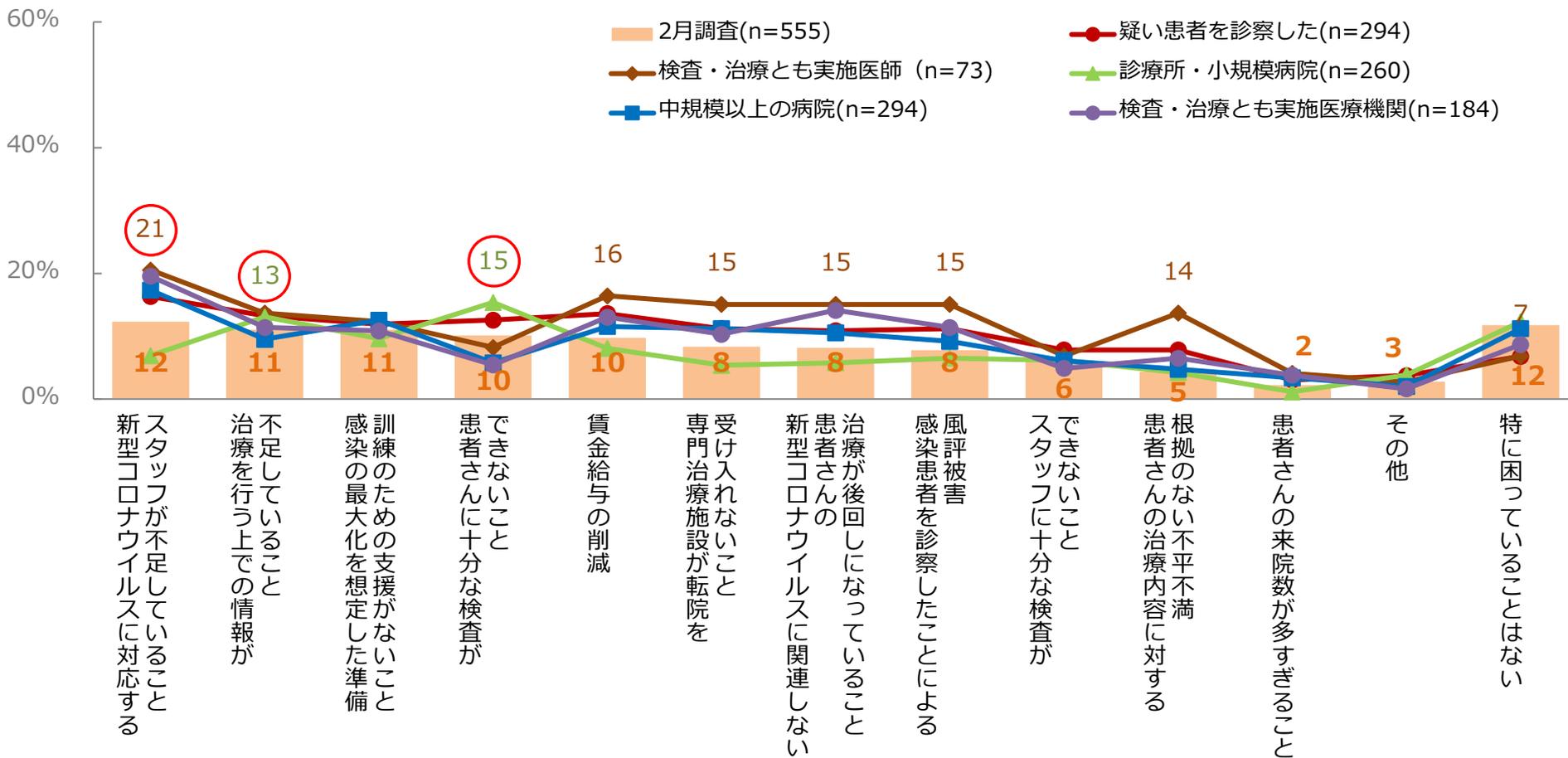
- グループ間では患者を検査・治療とも実施医師の選択率が全般的に高めで、平均4.9項目を選択している。「一般的な疾病に比べて診療にかかる負担が大きい」「情報やルールなどが日々変わること」「新型コロナウイルスに対応するスタッフが疲弊」を3割超が挙げ、他グループよりも高め。最前線の現場で、スタッフの疲弊に危機感がつのる状況がうかがえる。
- 診療所・小規模病院では、「患者さんの来院数が減っていること」が4割と相対的に高めの傾向が今回も継続している。「感染対策が十分にできない」は22%と、他グループよりやや高めだが、差は縮まってきている。



Q14. 最前線で「新型コロナウイルス」に対応する医師として、今、現場で先生が特に困っていることはなんですか。あてはまるものをすべてお選びください (MA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月/12月/2月)

医療現場で困っていること_2

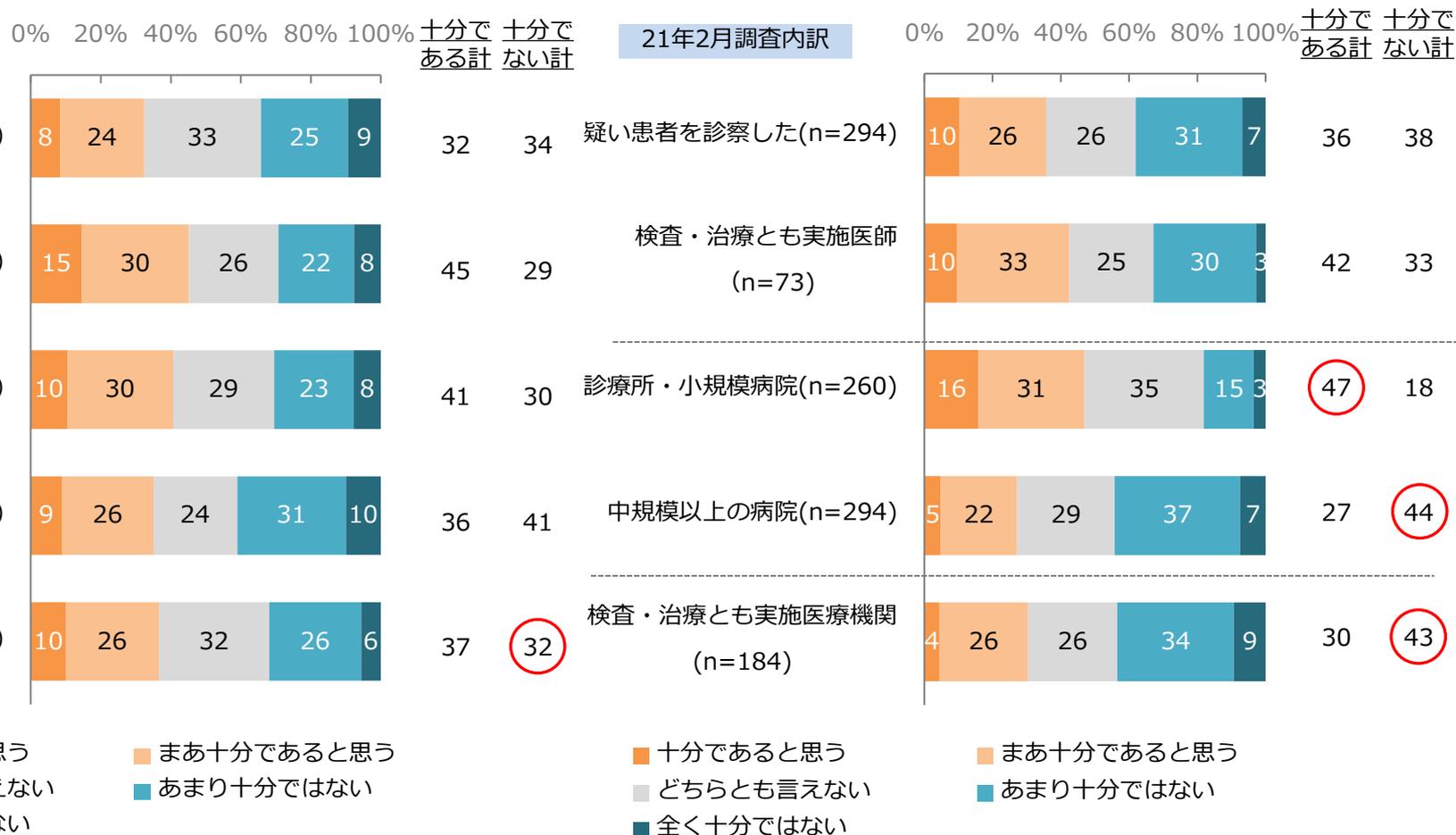
- 下位項目でも、検査・治療とも実施医師の選択率が全般的に高め。「新型コロナウイルスに対応するスタッフが不足」は2割超、「賃金給与の削減」「専門治療施設が転院を受け入れない」「新型コロナウイルスに関連しない患者の治療が後回しに」「感染患者を診察したことによる風評被害」、及び今回あらたに加えた、「患者の治療内容に対する根拠のない不平不満」も1割超の人が感じている。
- 診療所・小規模病院は、引き続き「十分な検査ができない」、「治療を行う上での情報が不足」を1割超が選択した。



Q14. 最前線で「新型コロナウイルス」に対応する医師として、今、現場で先生が特に困っていることはなんですか。あてはまるものをすべてお選びください (MA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月/12月/2月)

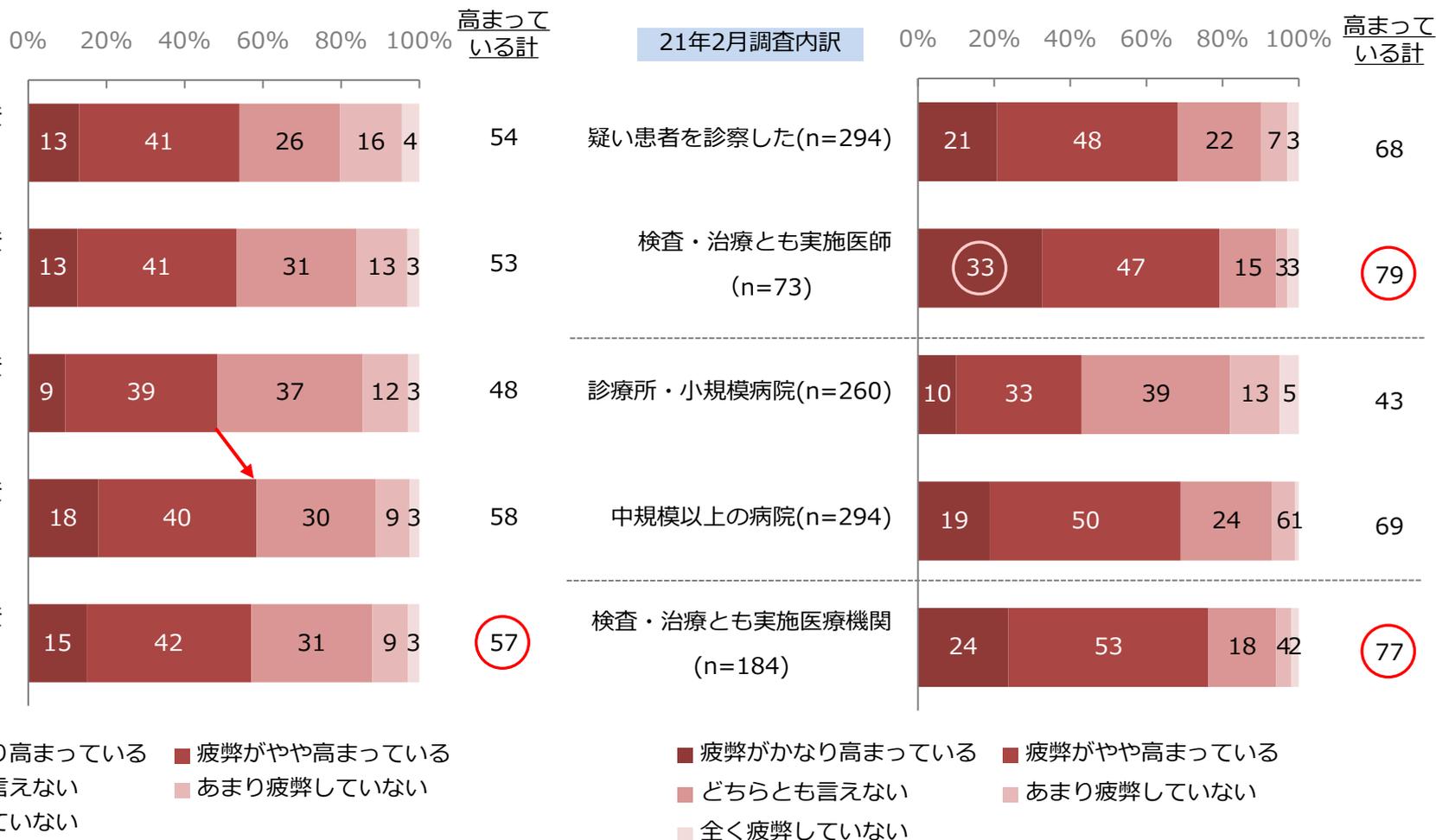
医療スタッフは足りているか

- 勤務先の医療スタッフの充足状況については低下傾向が続いていたが、12月以降は下げ止まっているようだ。「十分である」「十分」「まあ十分」の計が3割台。「十分でない」「あまり」「全く」の計は、12月時点より9ポイント減少し、3割台。
- 検査・治療とも実施医療機関では「十分である」計<「十分でない」計で、4割超が不足感をもっている。医療機関種別で見ると、診療所・小規模病院では「十分である」計が47%。中規模以上の病院に比べ、人員不足のひっ迫感が弱い傾向は続く。



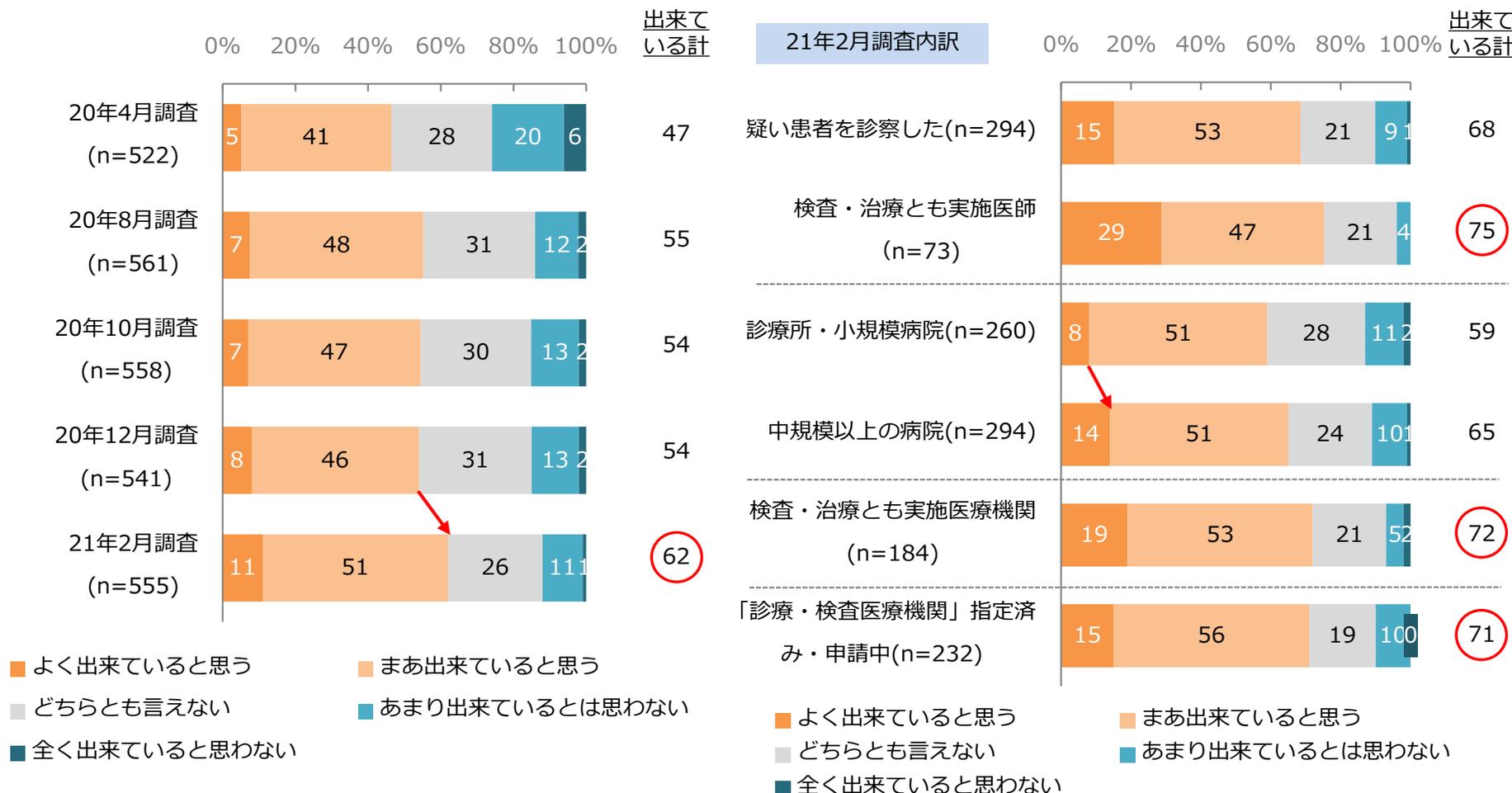
Q15. 先生のお勤めの医療機関では、緊急対策の影響でスタッフの数が足りないなどの状況がありますか。お勤めの施設のスタッフ数についてお答えください
 (SA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月/12月/2月)

- 医療スタッフの疲弊度も10月→12月に上昇したまま高止まりし、「疲弊が高まっている」(「かなり」、「やや」の計)が57%となった。
- 患者を検査・治療ともに実施医師では、疲弊が「かなり高まっている」が3割を超え、「高まっている」計が約8割に上る。検査・治療とも実施の医療機関でも8割近くが、「疲弊が高まっている」と回答。実際に診療にあたっている医療スタッフの疲弊が顕著な傾向が続いている。



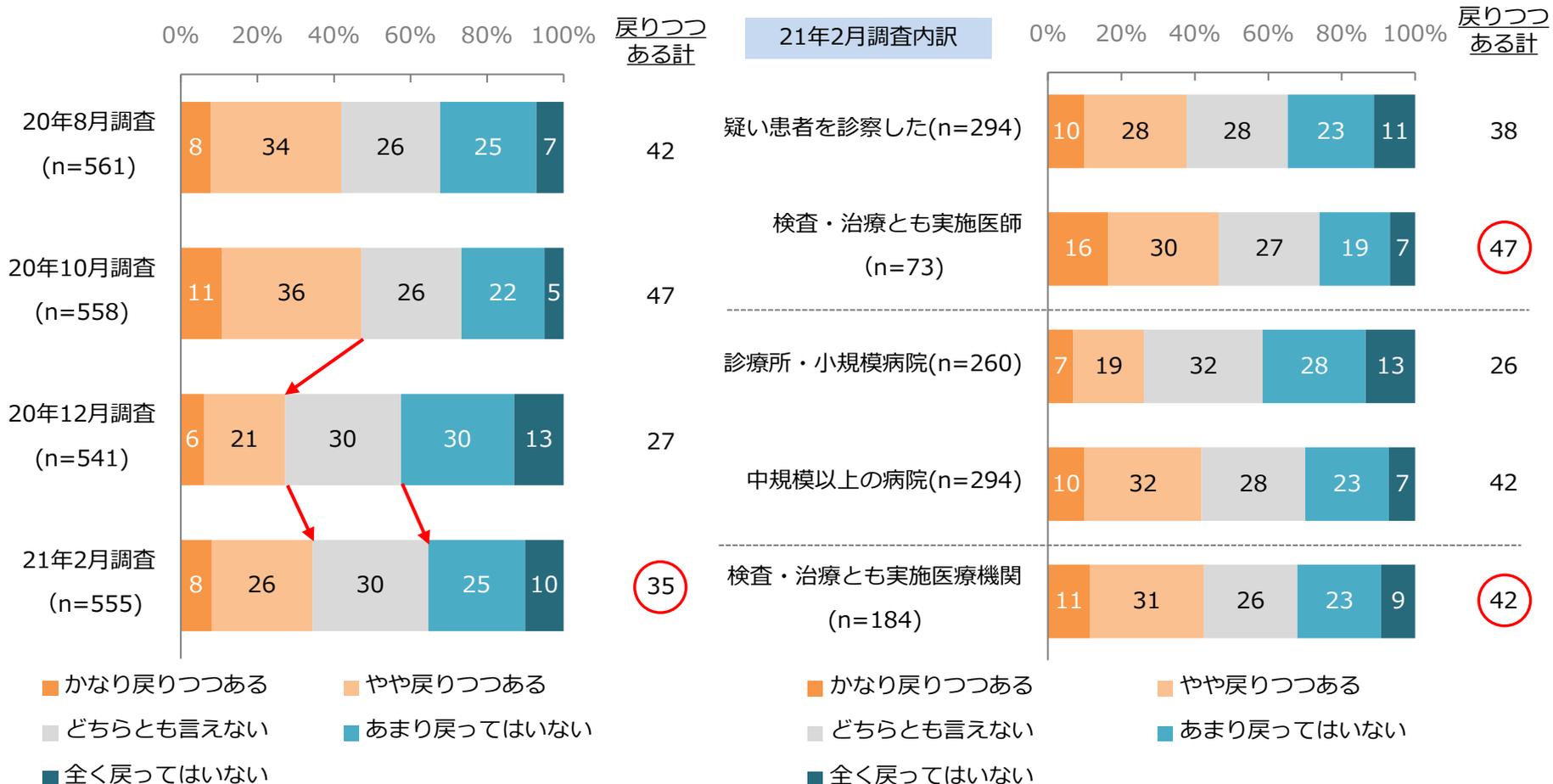
Q16. 先生のお勤めの医療機関では、新型コロナウイルス感染症の影響で医師を含む医療従事者の疲弊が高まっていると思われますか (SA, -/4月/5月/6月/8月/10月/12月/2月)

- 院内感染対策については、「出来ている」（「よく」、「まあ」の計）との回答が12月に比べ、8ポイント上昇し、はじめて6割台に上った。
- 患者を検査・治療とも実施の医師および医療機関の7割超が「出来ている」と回答。
- 医療機関種別では、診療所・小規模病院の「出来ている計」が12月調査から10ポイント上昇し、約6割に増えた。かかりつけ医にも検査や診療が拡大し、対策を再検討・実施した医療機関が増えたのではなかろうか。
- 指定済み・申請中の「診療・検査医療機関」も、7割超が「出来ている」としていた。



Q17. 先生は、院内の感染対策についてどのようにお考えでしょうか (SA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月/12月/2月)

- 来院患者数が、新型コロナウイルス拡大以前の状況に戻りつつあると思われるかを聞いたところ、2月は全体の3割超が「戻りつつある」「かなり」、「やや」の計」と回答し、12月に比べ8ポイント回復した。患者の受診控えは第三波に入った12月に比べ少し収まった感がある。
- 新型コロナウイルスの検査・治療に対応している医師(12月37%→2月47%)、医療機関(12月35%→2月42%)では、「戻りつつある」は4割を超え12月調査より7~10ポイント改善したが、診療所・小規模病院では26%に留まる。

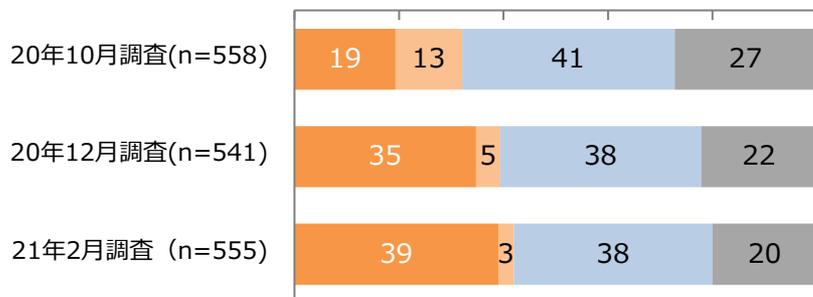


Q18. 先生のお勤めの医療機関では、来院患者数は新型コロナウイルス拡大以前の状況に戻りつつあると思われますか (SA, -/-/-/6月/8月/10月/12月/2月)

「診療・検査医療機関」としての申請状況

- 「診療・検査医療機関」の申請状況について、「分からない」を除いた結果で見ると、「すでに指定されている」は12月から4ポイント微増し全体の49%。
- 「すでに指定されている」との回答は、患者を検査・治療ともに実施医師はベースが小さいながら9割弱、検査・治療ともに実施医療機関の89%に上っている。
- 医療機関規模別では、「すでに指定されている」は中規模以上の病院の6割超、診療所・小規模病院では35%と開きがある傾向は続く。診療所・小規模病院の6割超が「申請する予定はない」と回答してる。

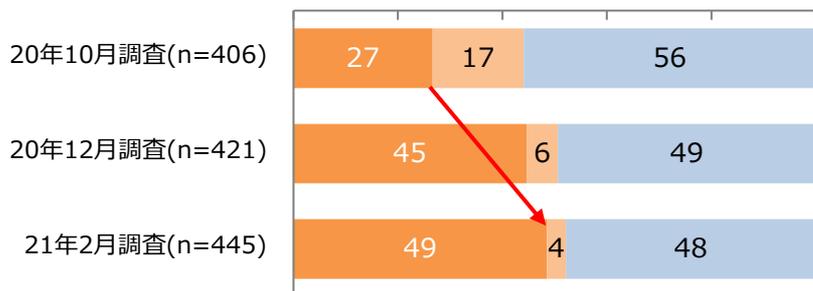
0% 20% 40% 60% 80% 100%



■ すでに指定されている ■ 現在申請中
■ 申請する予定はない ■ 分からない

Base:「分からない」を除く回答者

0% 20% 40% 60% 80% 100%



■ すでに指定されている ■ 現在申請中
■ 申請する予定はない

21年2月調査内訳

Base:「分からない」を除く回答者

0% 20% 40% 60% 80% 100%



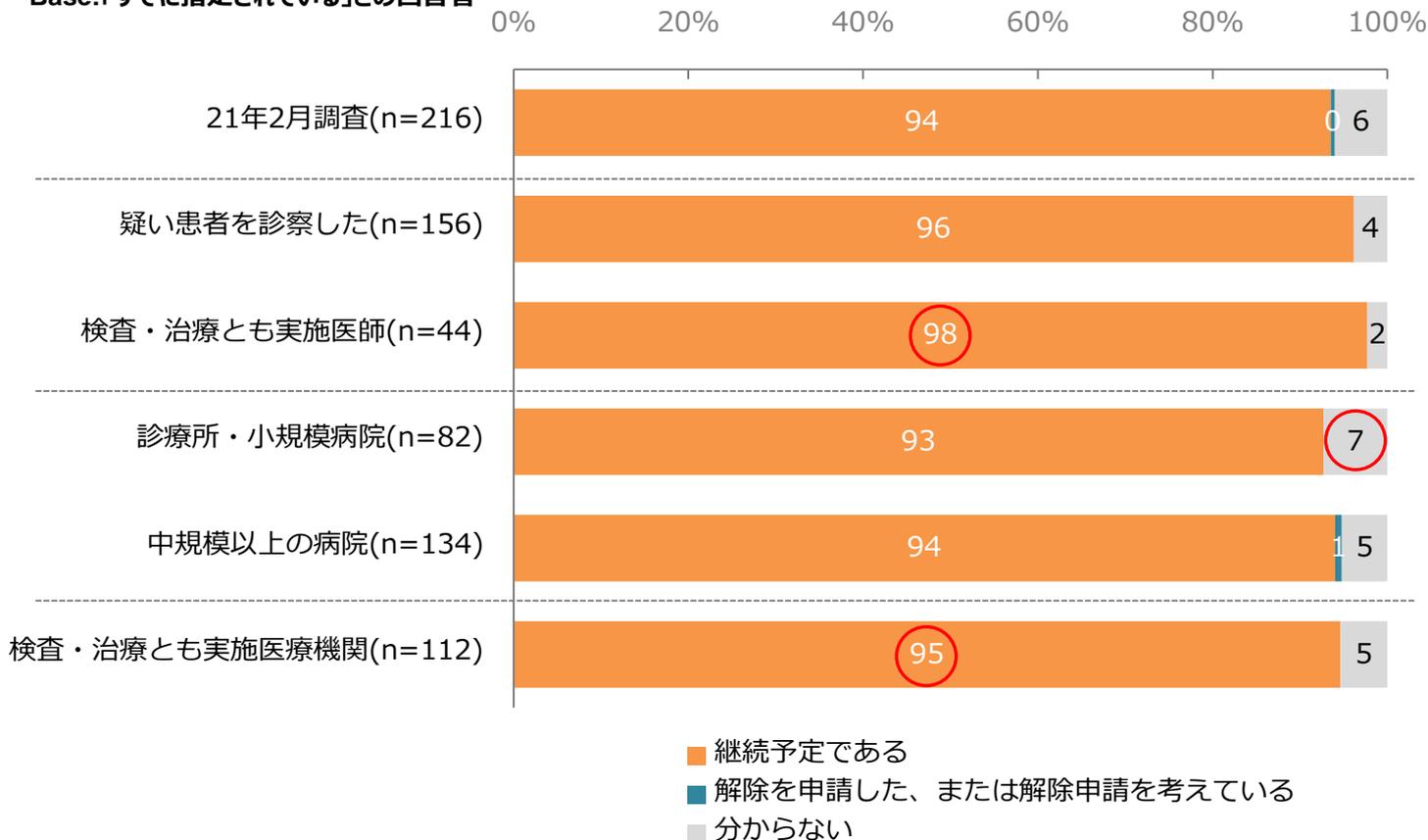
■ すでに指定されている ■ 現在申請中
■ 申請する予定はない

Q19. 先生がお勤めの医療機関は、「診療・検査医療機関（仮称）」として申請・指定されていますか（OA, -/-/-/-/-/10月/12月/2月）

「診療・検査医療機関」としての継続予定

- 既に診療・検査指定医療機関として指定されている回答者全体の94%が「継続予定」と回答。「解除を申請した、または解除申請を考えている」は、わずか0.46%に留まった。
- グループ間では、ベース数が少ないものの、患者を検査・治療とも実施医師の98%が、検査・治療とも実施の医療機関では95%が「継続予定」を選択。診療所・小規模病院の7%が、「わからない」を選択した。

Base:「すでに指定されている」との回答者

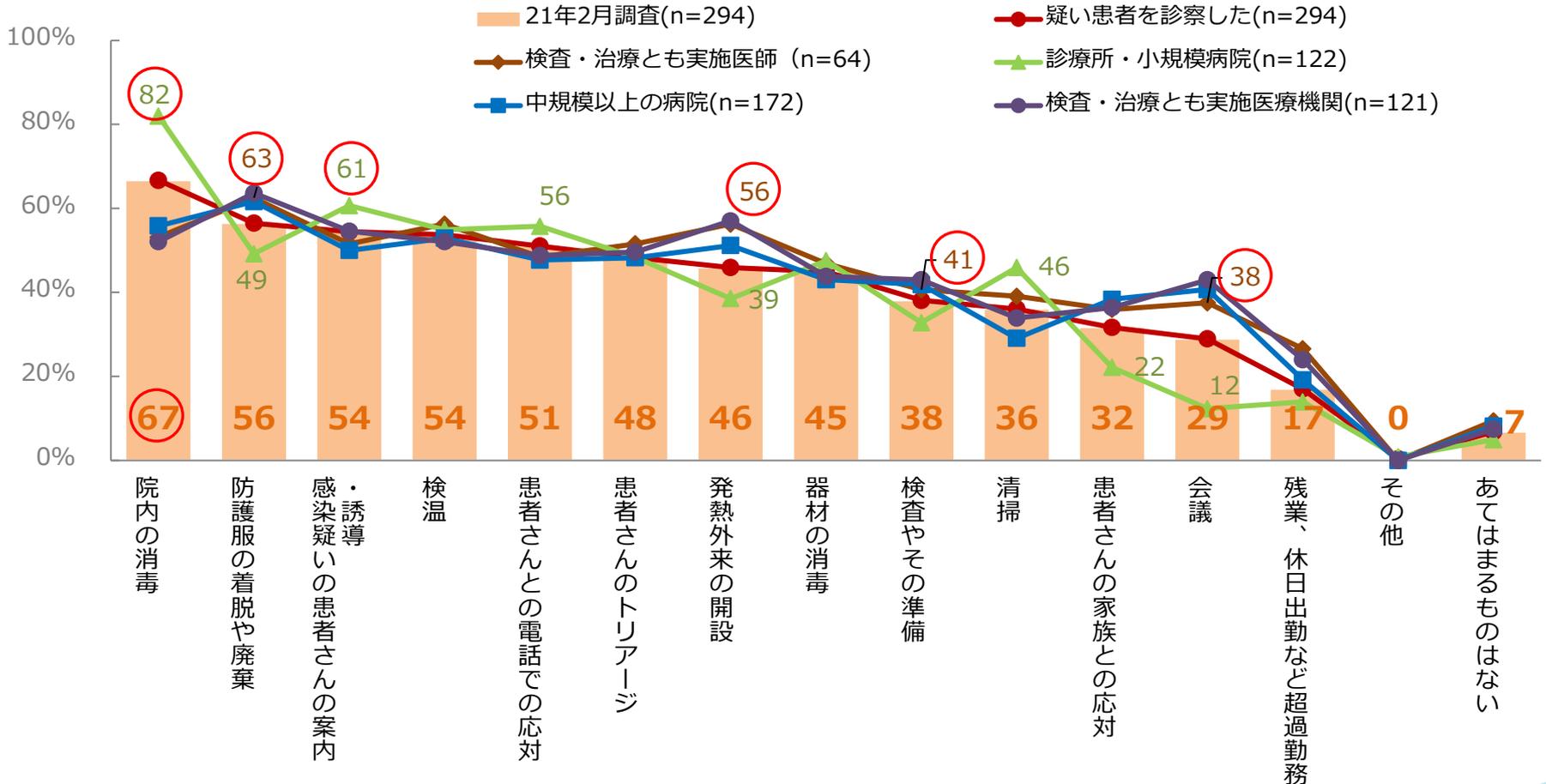


Q20. 先生がお勤めの医療機関は、「診療・検査医療機関」としての指定を今後も継続予定ですか (SA, -/-/-/-/-/-/2月)

新型コロナウイルス患者診察にともなう追加業務 eHealthcare

- 新型コロナウイルス患者診察にともなう、追加業務については、「院内の消毒」が全体の67%と最も高く、「防護服の着脱や廃棄」「感染疑いの患者さんの案内・誘導」「検温」「患者との電話での対応」が5割台で続く。
- グループ別にみると、検査・治療とも実施医師は、「防護服の着脱や廃棄」が63%とグループ内で最も高く、「発熱外来の開設」が56%に上る。検査・治療とも実施医療機関も同様の傾向。専門的にコロナの診療にあたる医師らの負荷がこれらの追加業務によって上がっているようだ。
- 診療所・小規模病院では、「院内の消毒」が8割超、「感染疑いの患者の案内・誘導」が6割超と他グループよりも高く、通常の外来診療をするため、戻りつつある患者へ感染対策に徹しているようすがうかがえる。

Base: 疑い患者を診察した



Q21. 新型コロナウイルス疑い患者診察にともない、医療スタッフが従来の業務以外に、追加で行わなければならなくなった業務などはありますか。あてはまるものをすべてお選びください。(MA, -/-/-/-/-/-/2月)

- 新型コロナウイルス患者を診る上で、不足している情報について聞いた。2021年2月調査時点では、ワクチンの具体的な接種スケジュールや供給状況、また有効性や副反応についての情報を求める声が多く挙がった。その他には、居住地での正確な感染状況などの、地域の感染状況、患者の詳細な行動履歴や、背景情報など。明確な検査基準も求められている。また、受け入れ医療機関情報の共有や、医療機関の連携情報の不足を指摘するコメントもあがった。

患者を診る上で不足している情報 (医師都道府県・主診療科目)

【ワクチンについて】

- ワクチン(岡山・泌尿器科) (広島・放射線科) (神奈川県・糖尿病内科(代謝内科)) 他多数
- ワクチンに関する情報(岡山・内科) (山形・消化器外科(胃腸外科)) 他多数
- ワクチン情報(埼玉・糖尿病内科(代謝内科)) (山形・腎臓内科) (大阪・皮膚科) 他多数
- ワクチンに関する情報をマスコミ報道より早くほしい(福岡・内科)
- ワクチン接種に対する知識全般(石川・内科)
- 今は、ワクチンに対しての質問が多い。が、具体案が決まっておらず答えようがない(愛知・内科)

【ワクチンの具体的スケジュール・供給状況・接種方法】

- ワクチン接種のスケジュール(広島・産婦人科) (千葉・内科) (富山・呼吸器内科)
- ワクチン接種のロードマップ(東京・心臓血管外科(循環器外科))
- ワクチン接種スケジュールと順番ワクチン接種の時期(香川・眼科)
- ワクチン実施の見込み 計画 いつ どこで 打つか 現状不明(滋賀・神経内科)
- ワクチンはどのぐらいの量が日本に輸入されるのでしょうか(岐阜・内科)

【ワクチンの有効性や副反応】

- ワクチンの有効性(兵庫・産婦人科)
- ワクチン接種の有効性、特に1回だけでも良いか否か(埼玉・小児科)
- 日本人のワクチン有効性(千葉・脳神経外科)
- ワクチンの副反応 日本人(佐賀・内科)

【地域の感染状況】

- クラスター施設情報(東京・泌尿器科) (大阪・精神科)
- 感染者がどこにどれだけの情報がほしい(新潟・内科)
- 感染者の人数の報告だけでなく、どういった場所でのような感染様式だったか具体的に(広島・内科)
- 居住地での正確な感染者情報(兵庫・内科)
- 近隣の詳しい発生状況が知りたいが、個人情報に関わるためあまり伝わって来ない(兵庫・小児科)

【患者の行動履歴・前情報・背景】

- 医療機関は情報を持っているが、患者側の情報が不足している為に、思わぬ濃厚接触者が出てしまう(長崎・神経内科)
- 患者の行動範囲(東京・糖尿病内科(代謝内科))
- 感染する可能性のある行動について、話してくれない(大阪・整形外科)
- 他県への移動の有無(山形・内科)
- 家族の状況(東京・小児科)

【治療方針・対応】

- 治療について、具体的な指針がほしい(静岡・麻酔科) (千葉・糖尿病内科(代謝内科))
- 治療法(埼玉・整形外科) (兵庫・外科) (愛知・眼科) 他
- 陽性が出た場合の対応マニュアル(大阪・精神科) (山梨・精神科)
- 発熱の子供をどうするか(北海道・耳鼻いんこう科)

【検査基準の明確化】

- 検査基準の明確化。(大分・耳鼻いんこう科)
- 検査必要者の明らかな定義がない(富山・内科)
- PCR検査施行の基準(石川・小児科)

【地域の受け入れ医療機関】

- 近隣の受け入れ医療機関の情報(茨城・精神科)
- 受診出来る医療機関の情報(石川・精神科)
- 地域の対応可能医療機関の情報(千葉・精神科)
- 地域医療機関の情報(和歌山・皮膚科)
- 重症例の入院先(秋田・糖尿病内科(代謝内科))

【医療機関連携】

- 医療機関の連携(京都・精神科) (京都・外科)
- 地域の医療資源がうまく使われていないので、医師会を中心とした連携の情報(東京・泌尿器科)
- コロナ対応病院の連携の情報院内の対応における連携(岡山・小児科)
- 入院決定や入院先の決定など不透明なことが多い(青森・泌尿器科)

【検査できる医療機関、検査の実際】

- PCRの結果(滋賀・循環器内科)
- PCRの精度。発熱持続のPCR陰性患者をどうフォローするか(奈良・内科)
- PCR検査ができる機関の情報提供(熊本・内科)
- 確実な検査方法(秋田・内科)
- 検査体制の実際(愛媛・内科)
- 精度の良い迅速抗原検査情報(北海道・内科)

【その他】

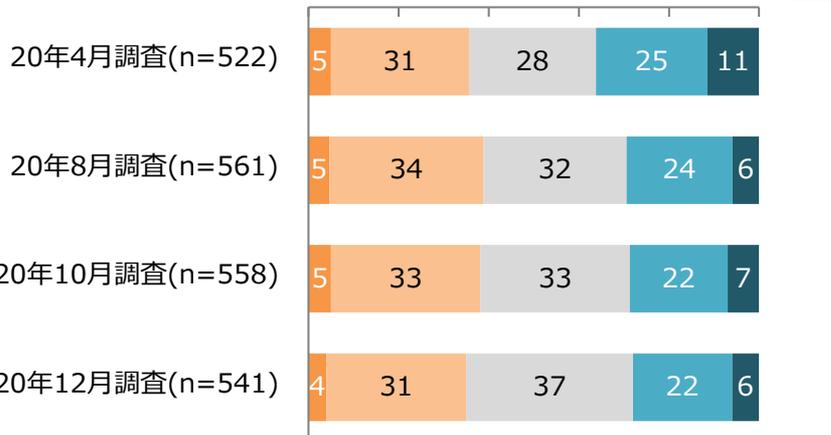
- 政府の方針(岐阜・整形外科)
- 患者さんの受診リテラシーが低い(奈良・内科)
- 健康保険上の扱いについて(とくに公費・自費)の違いについて(神奈川・耳鼻いんこう科)

Q22. 新型コロナウイルスが疑われる患者を診る上で、不足している情報、あったら良いと思われる情報があれば、具体的に教えてください (OA, -/-/-/-/-/-/-/2月調査のみ)

相談窓口は機能しているか

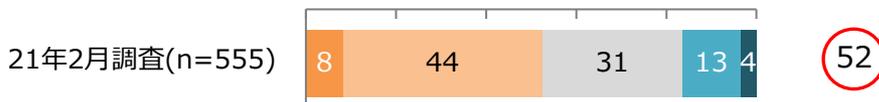
- 都道府県設置の新型コロナウイルス受診相談窓口について「機能していると思う」（「良く」「まあ」の計）の漸減が12月まで続いていた。今回、「保健所や発熱相談センターなどの相談窓口」として聞いたところ、「良く」と「まあ」をあわせて機能しているが、過半数に上る。
- 実際に検査や治療にあたっている、患者の検査・治療とも実施医師や医療機関では、「機能していると思う」の割合が多めで6割台。診療所・小規模病院のみ、半数を割った。

保健所や帰国者・接触者相談センターなどの相談窓口



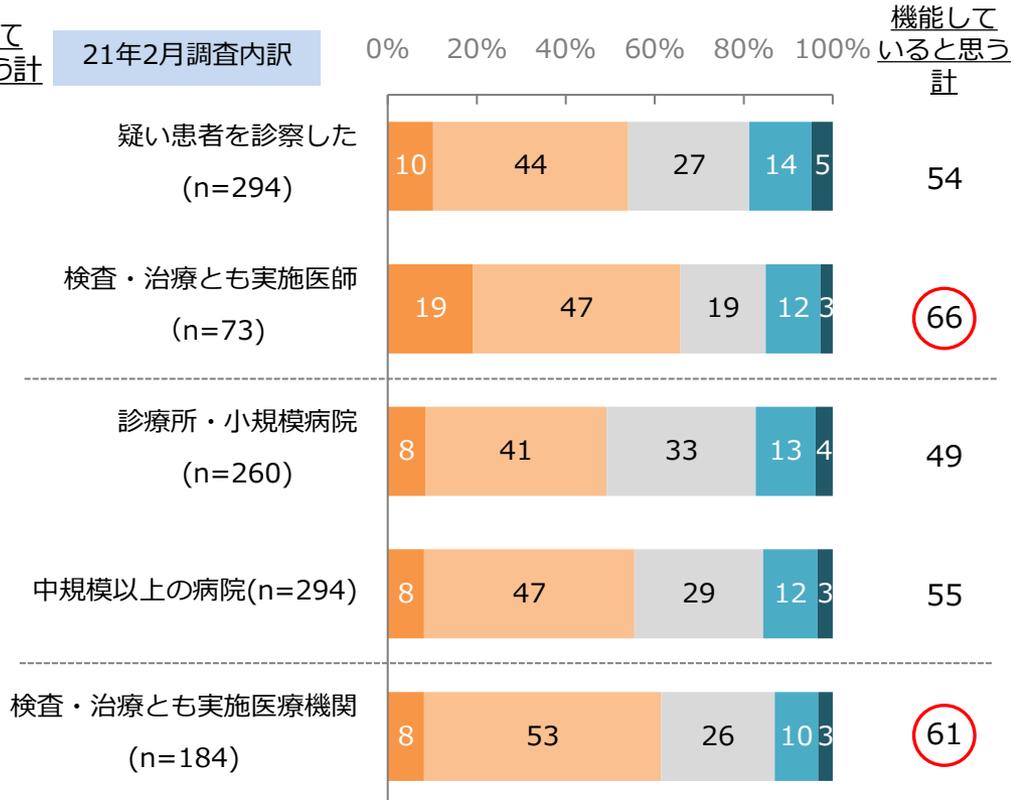
- 良く機能していると思う
- まあ機能していると思う
- どちらとも言えない
- あまり機能していると思わない
- 全く機能していると思わない

保健所や発熱相談センターなどの相談窓口



- 良く機能していると思う
- まあ機能していると思う
- どちらとも言えない
- あまり機能していると思わない
- 全く機能していると思わない

21年2月調査内訳



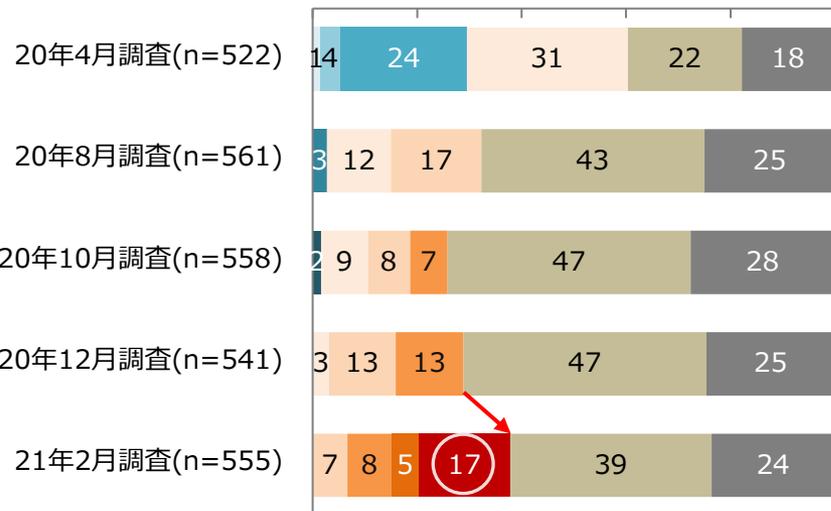
- 良く機能していると思う
- まあ機能していると思う
- どちらとも言えない
- あまり機能していると思わない
- 全く機能していると思わない

Q23. 先生がお勤めの地域では、保健所や、都道府県が設置する発熱相談センター*などの相談窓口が正しく機能しているとお考えですか。（SA, -/4月/5月/6月/8月/10月/12月/2月） *12月調査までは「帰国者・接触者相談センター」と記載

新型コロナウイルスの収束時期予測

- 収束時期については、「2～3年かかる」との回答は12月調査時点より8ポイント減少し8月以降初めて4割を切ったが、「22年春ごろ」の17%と合わせると過半数を占める。「収束しない」は、継続的に4分の1前後が回答。
- 実際に患者の検査・治療にあたっている医師では、21年「夏ごろ」または「秋ごろ」との回答がやや多く、合わせて2割を超えた。

0% 20% 40% 60% 80% 100%

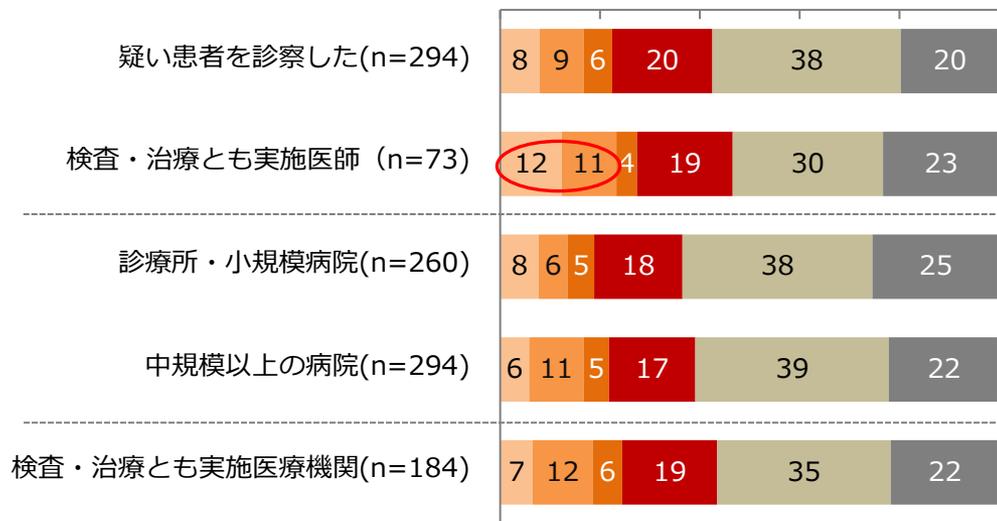


- (20年3月中に収束するだろう)
- (20年4月中)
- (20年5月中)
- (20年の夏ごろ)
- (20年の秋ごろ)
- (20年の冬ごろ)
- (21年の春ごろ)
- 21年の夏ごろ ※20年8月調査で追加
- 21年の秋ごろ ※20年10月調査で追加
- 21年の冬ごろ ※21年2月調査で追加
- 22年の春ごろ ※21年2月調査で追加
- 2～3年かかるのではない
- 収束しない (季節性インフルエンザの様に不定期に流行が起きる)

過去の選択肢

21年2月調査内訳

0% 20% 40% 60% 80% 100%

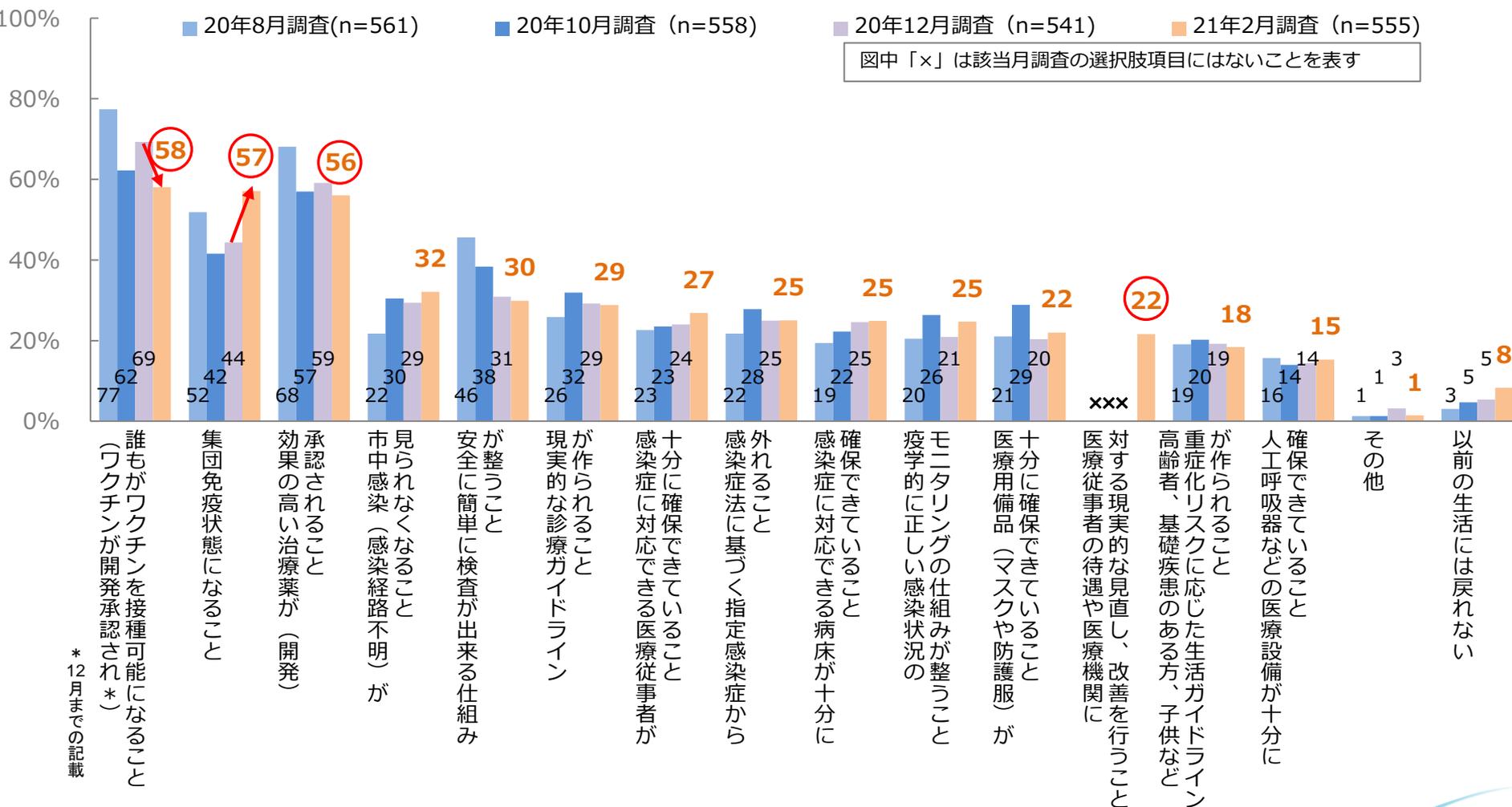


- 21年の夏ごろ ※20年8月調査で追加
- 21年の秋ごろ ※20年10月調査で追加
- 21年の冬ごろ ※21年2月調査で追加
- 22年の春ごろ ※21年2月調査で追加
- 2～3年かかるのではない
- 収束しない (季節性インフルエンザの様に不定期に流行が起きる)

Q24. 先生はこの新型コロナウイルスの流行はいつまで続くとお考えでしょうか (SA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月/12月/2月)

感染拡大以前の生活に戻るために必要なこと

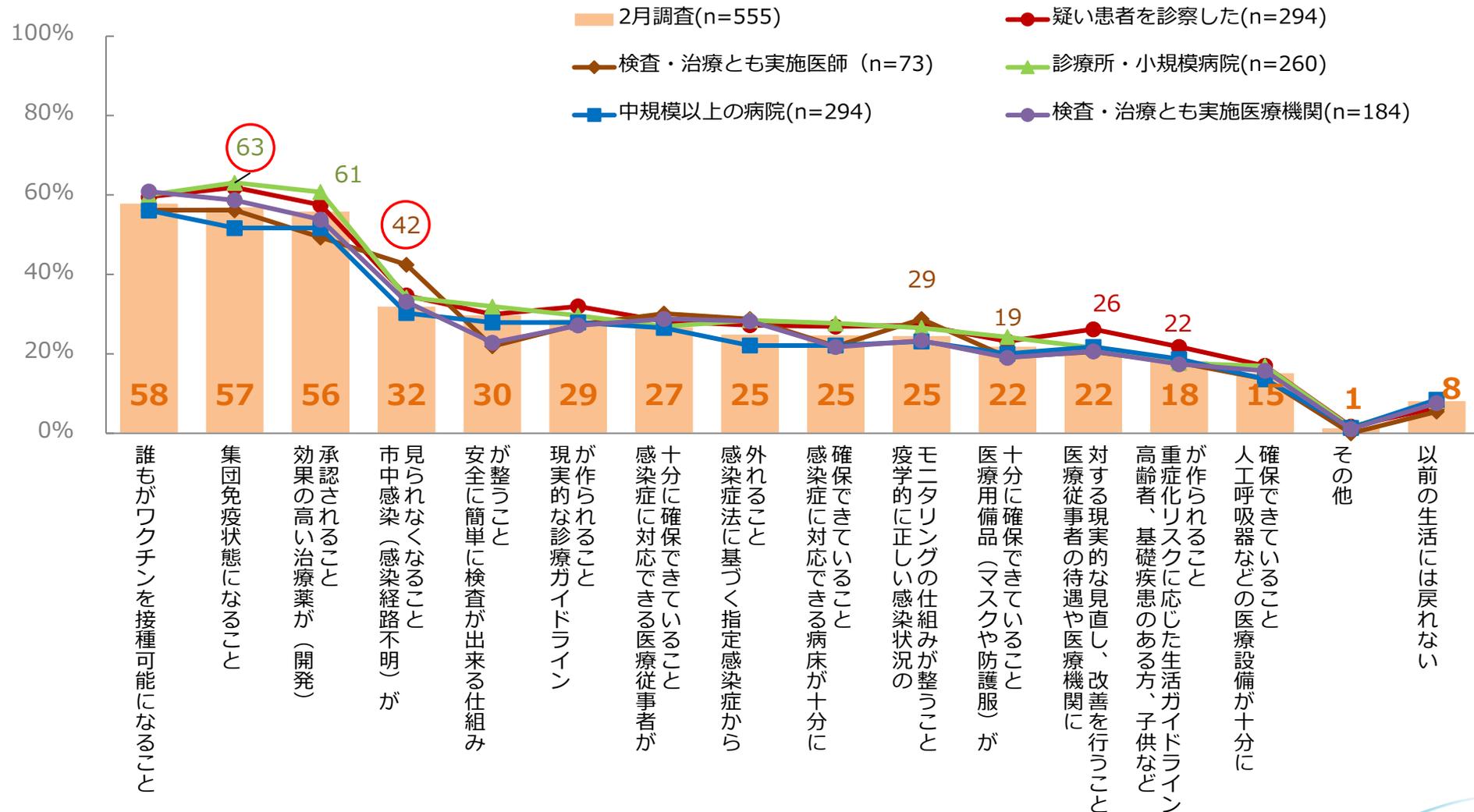
- 感染拡大以前の生活に戻るために必要なことについての回答傾向は、これまでとほぼ同様。「ワクチン」が最も高いが、12月調査時点より11ポイント減少し、6割弱となった。「集団免疫状態になること」、「効果の高い治療薬が（開発）承認されること」も同じく6割弱だった。
- 前回調査と比較すると、「集団免疫状態になること」は13ポイント増加している。21年2月の先行接種をはじめ実際のワクチン接種が開始したことに関連するとみられる。充足しつつある「検査ができる仕組み」、「医療用備品の確保」は、10月→12月に減少したまま下げ止まり。全般的に、12月の選択率とほぼ変わらない。2月に新たに聞いた、「医療従事者の待遇や医療機関に対する現実的な見直し、改善を行う」は2割超が選択した。



Q25. 感染拡大以前の生活に戻るために、先生が考える条件として、先生が必要と思われるものをすべてお選びください (MA, -/-/5月/6月/8月/10月/12月/2月)

感染拡大以前の生活に戻るために必要なこと

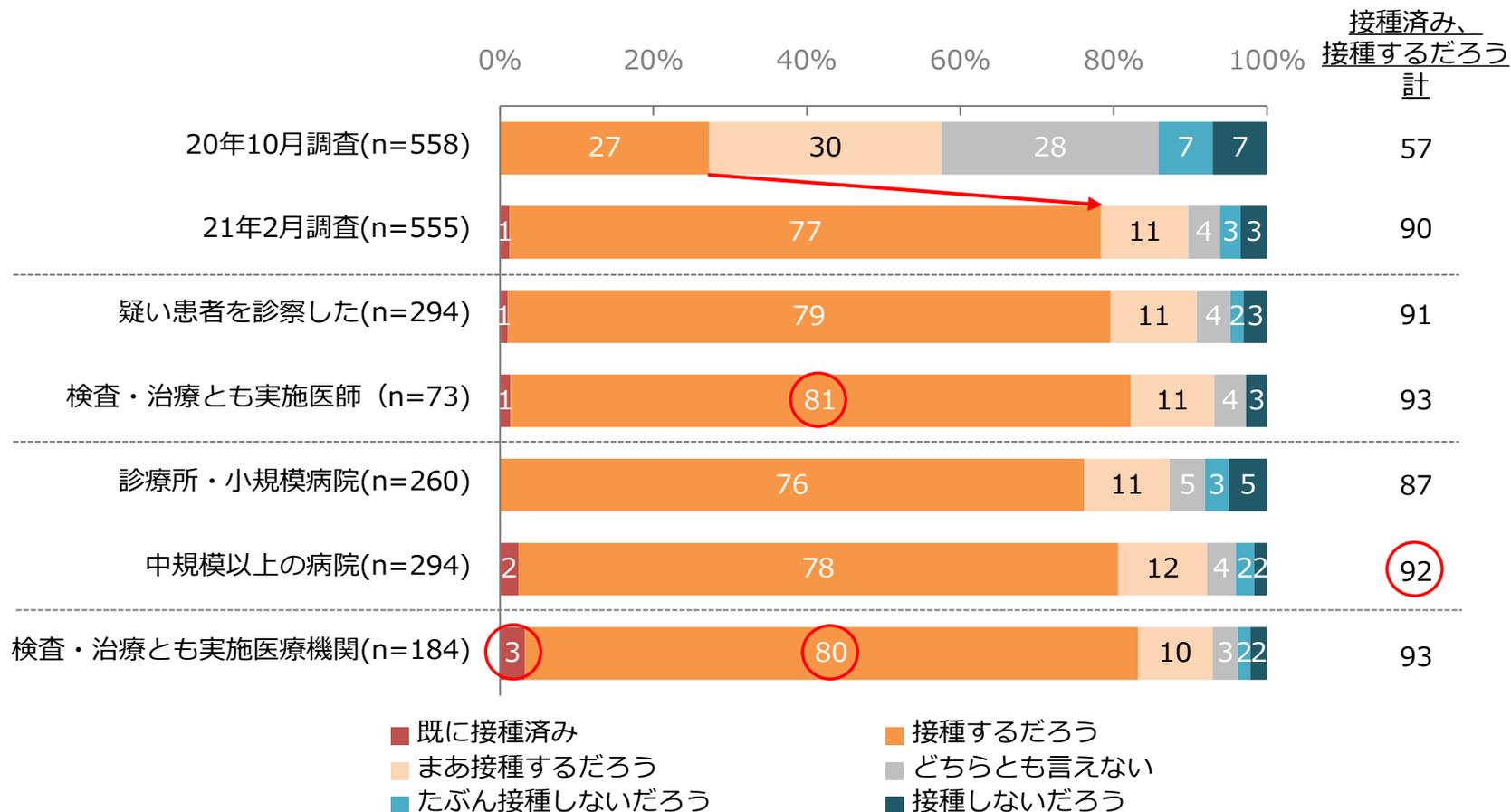
- 2月調査内訳で見ると、患者を検査・治療とも実施医師では「市中感染(感染経路不明)が見られなくなること」が高めである以外は顕著なグループ差はみられない。
- 診療所・小規模病院の6割超が、「集団免疫状態になること」及び「効果の高い治療薬が(開発)承認されること」を挙げ、中規模以上の病院より高い。



Q25. 感染拡大以前の生活に戻るために、先生が考える条件として、先生が必要と思われるものをすべてお選びください (MA, -/-/5月/6月/8月/10月/12月/2月)

自身の新型コロナウイルスワクチン接種意向

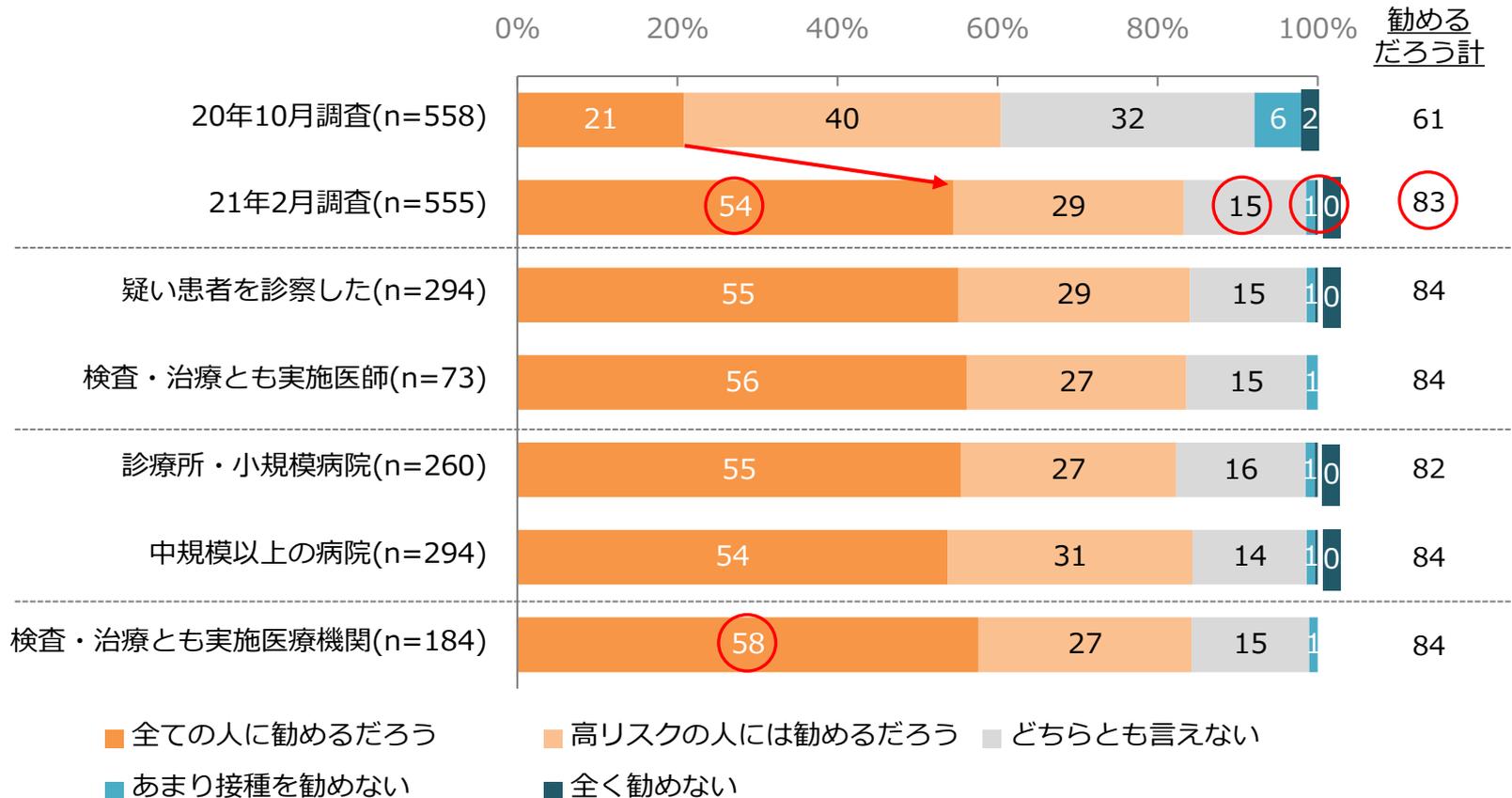
- 新型コロナウイルスのワクチンが完成した場合、医師自身がワクチンを接種しようと思うかを聞いた。2月時点では、「既に接種済み」が1%、「接種するだろう」は全体の77%で、10月時点と比べて50ポイントの大幅増加。「まあ接種するだろう」と合わせた接種意向は、9割に上る。政府の接種スケジュールの発表や、2月から一部医療機関で先行接種が開始された現状を踏まえた結果だろう。接種しないだろうは6%だった。
- 検査・治療とも実施医師および医療機関では「接種するだろう」がそれぞれ81%、80%とやや高め。検査・治療とも実施医療機関では、「既に接種済み」が3%含まれた。医療機関種別では、中規模病院以上の病院の92%が接種意向を示し、診療所・小規模病院よりも5ポイント高い。



Q26. 新型コロナウイルスのワクチン接種についてお伺いします。医療従事者等へのワクチン接種が開始されました。先生は、予防接種を受ける予定ですか (SA, -/-/-/-/-/10月/-/2月)

患者への新型コロナウイルスワクチン接種推奨意向

- 患者へのワクチン接種推奨意向について聞いたところ、全体の8割超が「勧めるだろう」と回答。10月調査時点よりも33ポイント高い、54%が「全ての人に勧めるだろう」と回答。15%が「どちらとも言えない」を選択し、「あまり+全く」勧めないが1%含まれた。
- 規模別では、中規模以上の病院と診療所・小規模病院に顕著な差はみられない。



Q27. では、ワクチン接種が可能な患者に対してワクチンの接種を勧めますか (SA, -/-/-/-/-/10月/-/2月)

来年度のスタッフの新規採用予定

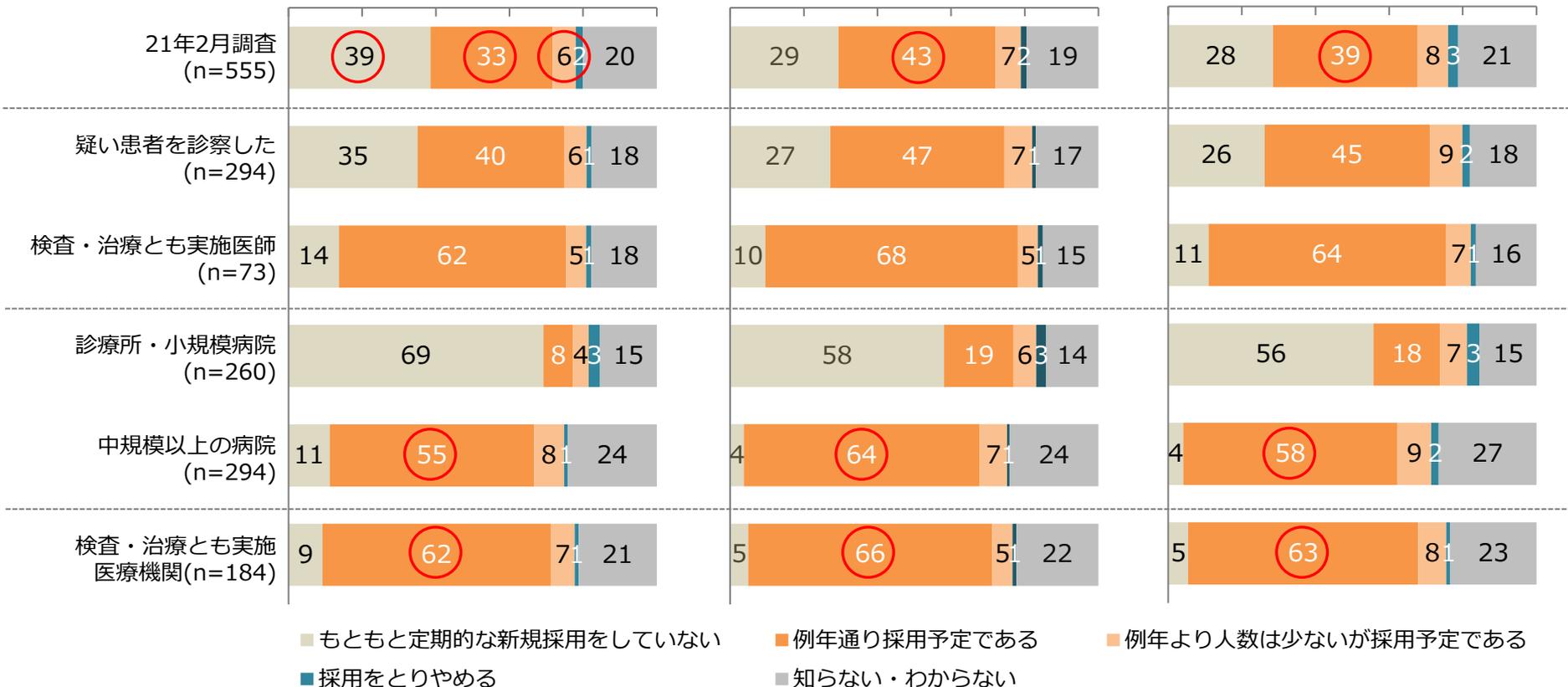
- 来年度のスタッフの新規採用予定を、医療スタッフ種別に聞いた。医師については、全体の39%が、「もともと定期的な新規採用をしていない」、「例年通り採用予定」が33%、「例年よりは少ないが採用予定」が6%。看護師、及び検査技師、受付、事務などでも「例年通り採用予定」4割前後と一番多い。
- グループ別にみると、勤務医が多く含まれる検査・治療とも実施医療機関や中規模以上の病院では、「例年通り採用」が6割前後。一方で、「例年より人数は少ない」「採用を取りやめる」も1割前後含まれた。

医師

看護師

検査技師、事務職、受付など

0% 20% 40% 60% 80% 100% 0% 20% 40% 60% 80% 100% 0% 20% 40% 60% 80% 100%



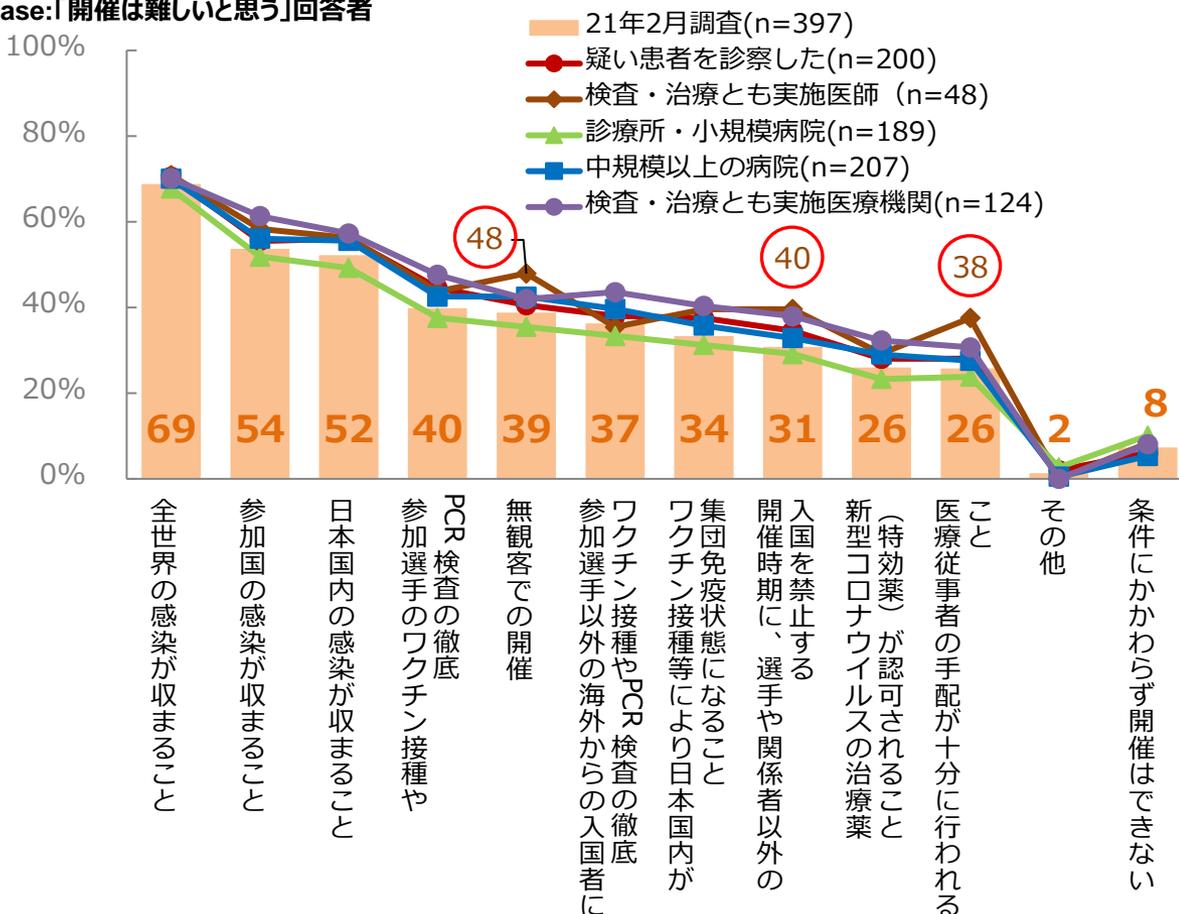
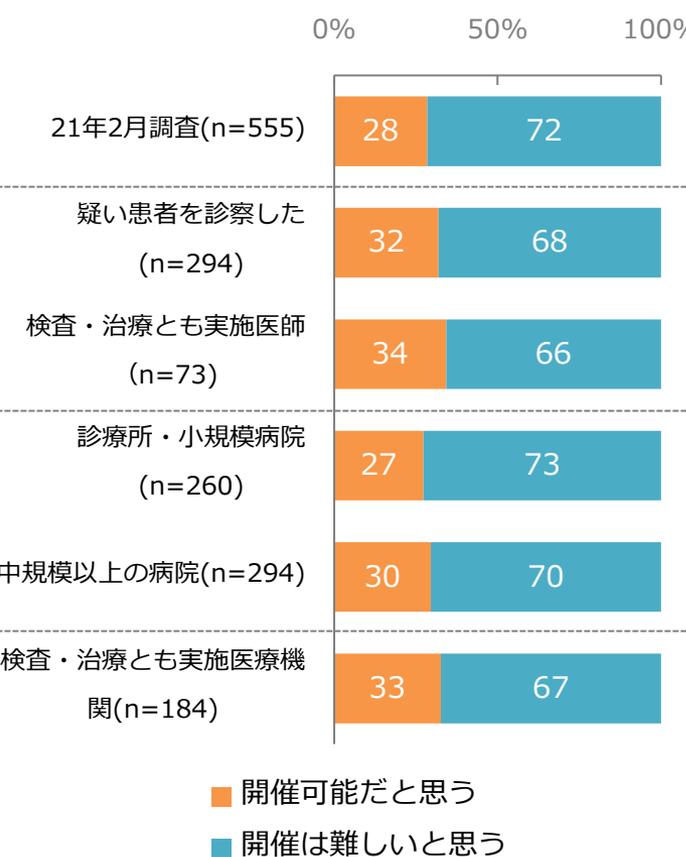
Q28. 来年度の医療スタッフの新規採用についてお伺いします。先生のお勤めの医療機関では、下記それぞれの医療従事者の新規採用は、どのような予定でしょうか。(SA, -/-/-/-/-/-/-/2月調査)

- 東京オリンピックの開催可否について、医師の考えを聞いた。「開催可能だと思う」は全体の28%、「開催は難しいと思う」が72%を占めた。
- 開催するために必要なことは、「全世界の感染が収まること」が69%と最も高く、「参加国の感染が収まること」「国内の感染が収まること」が5割台、「参加選手のワクチン接種やPCR検査の徹底」「無観客での開催」が4割程度で続く。検査・治療とも実施医師の「選手のワクチン接種やPCR検査」「選手や関係者以外の入国を禁止」「医療従事者の手配が十分に行われること」の選択率が他グループに比べ高め。

開催できると思うか

開催するために必要なこと

Base:「開催は難しいと思う」回答者



Q29. 開催予定まで半年を切った2021年東京オリンピック。いろいろな意見が出ていますが、先生はこのオリンピックの開催についてどのように思われますか (SA, -/-/-/-/-/-/-/2月) / Q30. 「開催は難しいと思う」とお答えの方にお尋ねします。開催するためには、何が必要だと思いますか。必要と思われるものをすべて教えてください。(MA, -/-/-/-/-/-/-/2月)

- 患者さんやご家族からかけられた言葉、応援された経験を具体的に聞いた。「頑張ってください」「体を大切に」「大変ですね」など、最前線の医療従事者を思いやりの言葉が多くみられた。医療物資の他、小学校や園からの手紙や、お弁当やお花、お菓子など差し入れなど、応援された経験が挙がった。一方で、「全くねぎらわれたことがない」「全く経験がない」という方も多くみられた。

患者さんや家族からねぎらいの言葉や応援されるなどの経験 (医師都道府県・主診療科目)

【頑張っ、お体を大切になどの言葉】

- 最近によく頑張ってくださいと励まされる (兵庫・泌尿器科) (東京・内科) (東京・皮膚科) (青森・皮膚科) 他多数
- 先生もお体を大切にしてくださいと患者さんから言っていた (埼玉・精神科)
- 先生もお体お大事にと何度もいわれた。院内には地域の方々からのメッセージが多数掲示されている。お菓子やさんなどから度々差し入れがスタッフに届いた (福井・消化器科内科 (胃腸内科))
- 頑張っ (奈良・整形外科)
- 患者さんから「先生もお体に気をつけて下さい」と言われた。 (岐阜・内科)
- 頑張っくださいとの応援の声 (神奈川・アレルギー科)
- 先生も気をつけてください (京都・糖尿病内科 (代謝内科))
- 時々、気遣いの言葉をいただく (東京23区外・内科)
- コロナにならないでがんばってください、 (広島・内科)
- 患者さんから励まされた。 (大阪・精神科)
- 先生も気をつけてね、と患者さんから言われた (千葉・眼科)
- 体に気を付けてと声をかけられた (新潟・循環器内科)
- ねぎらいあり (広島・神経内科)

【大変ですねとの声かけ】

- 「大変ですね」 (岡山・小児科) (岡山・泌尿器科) (愛媛・内科) (兵庫・外科) (京都・内科) 他多数
- 外来患者から「大変ですよ」と言われたが、私自身はコロナの最前線にいないのでそのように言われても申し訳ない気持ちだった (千葉・糖尿病内科 (代謝内科))
- 患者さんから、大変ですね、と言われた (山梨・神経内科)

【近隣の小学校・園などから】

- 近隣の小学校からの言葉 (神奈川・耳鼻いんこう科)
- 近隣の小学校から医療従事者に対する偏見がなくなるようメッセージが届いたこと (長崎・呼吸器内科)
- 待ち合いの壁に、近隣幼稚園から園児の寄せ書きが貼ってある。「コロナがおちいたらおいしいものをたべてください」には、つい笑ってしまった (福島・その他)
- 区からのお礼の品 (お菓子詰め合わせ) に小学校からの児童からのメッセージが入っており、励まされた (東京・小児科)

【家族から】

- 家族からねぎらいの言葉をかけてもらっている (東京23区外・内科)

【手紙や医療物資】

- 医療資材の無償提供と感謝の手紙等の応援 (兵庫・小児科)
- いろいろ応援の品をいただいている (兵庫・循環器内科)
- 病院に応援のメッセージや物資がたくさん届いた (山梨・内科)
- 発熱した患者を防護服で対応したら、後日感謝の手紙が届きました。なおこの患者さんはコロナではありませんでした。 (奈良・内科)

【お弁当やお花など】

- 食べ物や華が病院に寄付された (福岡・内科)
- 弁当の提供があった (千葉・脳神経外科)
- 地域内の事業所からマスクをいただきました。また、患者さんから花をいただいた (高知・内科)
- 弁当をもらった (秋田・糖尿病内科 (代謝内科))
- 地域の商店街のかりつけ患者さん (中華屋さん) が時々お弁当の差し入れをしてくれた、覚めた炒飯が美味しかった (東京・泌尿器科)
- マスクをいただいた (東京・小児科)

【その他の応援の言葉やエピソード】

- TVに感化された◎◎警察のような人より、「一般に向けての感染対策指導を厳しくやってくれ」というような圧力を受けた。ねぎらいではないが、応援といえば応援ではあった (千葉・麻酔科)
- 自分自身の経験はない。家族の勤務する病院でクラスターが発生した際、指導にきてくれたDMATが、スタッフに労いの言葉をかけてくれたこと。スタッフ全員が大変喜んでさうです (静岡・麻酔科)
- パレスチナからの移民の少女に、先生は一般診察から逃げないで偉いねと言われた。 (京都・小児科)
- 先日、ボーイスカウトから、応援のお手紙を頂きました (岐阜・腎臓内科)
- 患者さんからの待ち時間のクレームが減った (東京・脳神経外科)

【全く経験がない】

- 全く無い。医師会会長のyoutubeを見ると、支持しないがどれだけ多いか見てみれば解る (埼玉・外科)
- ほとんど経験していない (熊本・内科)
- ほとんどない (山口・消化器科内科 (胃腸内科))
- 幸い今のところ必要な事態になっていない (石川・内科)
- かかるなどか、外出するなというプレッシャーばかりかけてくる (徳島・内科)
- 今までにない (秋田・眼科)

【ネガティブ】

- 子供が学校で、親が医療従事者ということで、登校を控えて欲しいと教師に言われた事が (大阪・泌尿器科)
- GOTOで東京から来て発熱している患者に感謝されても、怒りしかない (山形・内科)
- 感謝やねぎらいの言葉は聞く、本心かどうかまでわからず (愛知・内科)

Q32. 新型コロナウイルスの流行以降、先生は、医療従事者として、患者さんやその家族から、ねぎらいの言葉や、応援されるなどの経験がございましたか。どんなことでもよいので、ご自由にお書きください。 (OA, -/-/-/-/-/-/-/2月調査のみ)